



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	明治一九年
Citation	北大百年史, 史料(二), 1-44
Issue Date	1981-07-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/30064
Type	departmental bulletin paper
File Information	siryo2_p1-44.pdf



明治
一九
年

六二二 北海道庁官制抜粹（内閣達第六号）

○第六号

省院庁府県

北海道庁官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年一月二十六日

奉 勅

内閣総理大臣伯爵伊藤博文

〔中略〕

第六条 北海道庁ニ左ノ学務官ヲ置ク

農学校長

農学校幹事

農学校教授

農学校助教

〔中略〕

第十九条 農学校長ハ事ヲ長官ニ受ケ学校ノ事務ヲ掌リ及職員ヲ管

理ス

第二十条 農学校幹事ハ校長ノ命ヲ受ケ学校ノ庶務ヲ管理ス校長事

故アルトキハ其事務ヲ代理スルコトヲ得

第二十一条 農学校教授ハ生徒ノ教授ヲ掌ル

第二十二條 農学校助教ハ教授ノ職掌ヲ助ク

〔法令全書〕

六二三 校務分担に付達

別紙之通可被心得此段及御達候也

明治十九年三月一日

森農学校長

校員一同（印）稿

（印）高田（印）益（印）大嶋（印）小関（印）築田
（印）菅（印）省部（印）内田（印）吉川

〔別紙〕

教務 兼取締高田

〃 碓 兼山崎但学生へ支給方取扱

但是迄取扱シ諸務

常務 加藤 金子 兼小関

但受付文移職務起案会計調度

図書 兼大嶋 小関

但時間ヲ限リ小関書庫ニ詰メ学生書庫ニ入ヲ禁当分講堂ニ於テ

書見ヲ許ス

時鳴鐘 兼内田

農園 兼南 築田

博物 兼宮辺 吉川

温室 兼宮部

今般之變更ニ際シ経費本年度ニ比較シ非常ノ減額從而人員モ又減少
シ是不得已ノ場合就テハ御苦勞ナカラ各位一層御奮発御勉勵ニ預リ
度可成費用ヲ節減シ諸務相互ニ助力シ簡端ニシテ庶事能ク整理スル

ヲ要シ学生ニ対スル尚心切ヲ加ヘラレ度単ニ希望候也

〔農二六三〕

六二四 米國滞在荒川重秀佐藤昌介両名へ魚油製造等調査命令に付伺

学第貳号

明治十九年三月十七日仕出

長官^④(省村)

農学校^④(森)

米國滯留學属官へ御命令之件伺

今般米國滯留荒川重秀佐藤昌介当庁属ニ被任候ニ付テハ魚油製造并
オートミールコオンミール製造調査方御命令相成度右ニ対シ旅費其
他臨時費用ヲ見込別段御手当トシテ各銀貨貳百円別紙調書^{〔注一〕}ニ準シ下
賜可然哉内閣上申外務省并紐育我領事へ御通牒^{〔注二〕}按共併テ左ニ相伺候
也

按

北海道庁属 荒川重秀

同 佐藤昌介

今般当庁属ニ任シ候ニ付テハ従前農商務省ヨリ相達候命令之通相心
得尚左之条件ヲ調査スヘシ

〔加筆〕

明治十九年三月廿三日於札幌

長官氏名

一 魚油製造方法及其得失調査之事

一 オートミール并コオンミール製造方法調査之事

一 右事項調査之要旨ハ別記^{〔注三〕}ニ示ス且別段手当トシテ各銀貨貳百円

支給ス

〔別紙〕

北第廿号

内閣へ上申案

米國滯留農商務省御用掛兩名採用之義上申

札幌農学校卒業生荒川重秀佐藤昌介ノ兩名自費ヲ以テ米國遊學致居
明治十六年中農商務省ニ於テ太政官裁可之上准判任御用掛ニ採用シ
農學上須要ノ事項並米國農工商業ノ景況等北海道拓地殖民ノ參考ト
為スヘキモノヲ調査セシムル為メ手当トシテ一ケ年銀貨六百円宛支
給シ其儘滯留ヲ命シ置キ本年七月満期ニ有之候処右帰朝ノ上ハ札幌
農学校教授上必要之者ニ付今般当庁属ニ採用給テ農商務省命令之通
可心得旨相達候条此段上申候也

〔加筆〕
十九年三月廿三日

長官

内閣総理大臣宛

〔注一〕 別紙を略す。

〔注二〕 外務省等への通牒案を略す。

〔注三〕 「魚油製造ニ関スル調査之要旨」等を略す。

〔農二四六〕

六二五 化学教科書購入目録進達の件

十九年三月廿二日札幌ニテ

農学校長森源三殿

拝啓然ハ化学科ニ於テ入用ノ教科書目録別紙進達仕候尤モ右書籍ハ次学期ノ初（九月一日頃）迄ハ別ニ入用無之候得共其折ニ至リ當時ノ初年生ニ於テ悉皆要スル所ノ者ニ有之候頓首

エツチ、イー、ストックブリツジ

〔別紙〕

化学教科書目録

ウキル氏定性分析表

拾部 貳拾七円五拾錢

アツプルトン氏定量分析

拾部 貳拾五円

同 定性分析

貳拾部 四拾円

合計 九拾貳円五拾錢

右合金ノ外運送費トシテ拾円必要ト存候

十九年三月二十二日

エツチ、イー、ストックブリツジ

〔ストックブリツジ三七〕

六二六 學術談話会願出の講堂貸与等に付同

第十三号

明治十九年三月二十四日

高田信清◎

長◎◎◎

事務掛◎◎◎

別紙願出之趣取調候処昨十八年十月中会則ヲ添ヘ出願既ニ許可アリシ談話会ヲ革張シ常会ノ外計画之義ニ有之候故ニ他会と者其趣キヲ異ニセシヲ以テ此会ニ限り薪炭ニ至ルマテ願之通り御載可相成リ可然哉指令案相添ヘ此段相伺候也

案

願之趣聞届候事

但シ当日該場ノ開閉及ヒ椅子薪炭等ノ取締方法相立可申出候

明治十九年三月廿四日 校印

〔別紙〕

願書

今般私共儀相謀リ毎月耆回外国教師ニ請ヒ學術之講筵ヲ開キ当校生徒卒業農學士并ニ校員ノ聽聞ヲ許シ聊カ得ル所ノ愉快ト利益トヲ分チ度存候就而ハ毎月第四金曜日午后七時より九時半ニ至ル間旧復習講堂御貸与被下間敷哉且ツ当日ニ限り椅子六拾脚許拝借奉願候若シ燈火薪炭ヲモ御給与被下候ハ、難有存候右何卒特別之御詮義ヲ以御

許可被下度懇願候也

十九年三月廿三日

學術談話会々員物代 宮部金吾[㊟]

札幌農学校御中

〔農二八二〕

六二七 ブルックスに教頭心得申付の儀上請

明治十九年三月廿九日

農学校長

長官

教頭心得被命度義ニ付上請

本校開設之當時教頭ヲ置キ教授之上席ヲ以テ之ニ充テ教授上ノ得失課程ノ組織又ハ年報材料編成等ノ責ニ当ラシムル事トシ最初御雇教師クラーク之ニ任シ尋テホキラー之ヲ承ケ後ペンハロー、ブルックス相繼同心得被命候処去十五年農商務省所管ト相成教頭之名義被廃爾後其儘ニ成リ来リ候処数年来ノ經驗ニ徴シ右設無之ハ實際ニ於テ不便不勘義ト認定候条旧ニ依リ左記之者同心得被命候様致度此段上請候也

農学校教師兼農園監督ウヤリアムビーブルックス

付 右に付内閣指令書送付

雇外国人ノ内一名教頭心得ヲ命スルノ件内閣指令書尅葉及御送付候

也

明治十九年四月二十八日

庶務課長代理藤田理事官^印

森農学校長殿

〔別紙〕

内閣批第四号

〔朱書〕
「農学校教授雇外国人ノ内一名へ教頭心得ヲ命スルノ件伺ノ趣認許ス

ス

明治十九年四月六日

印

〔内閣総理大臣之印〕

〔農二四六〕

六二八 農園地及び畜類返納に付同

二十七号

明治十九年三月

農学校[㊟]〔移〕

長官

農園之内返納之義ニ付同

本校所屬農園地ノ内生徒ヲシテ実験セシムル地積及家畜房并農業規模ノ適用ヲ生徒ニ熟知セシムルニ要スル畜類并器械等ヲ除クノ外別紙之通悉皆返納御聞届ノ上ハ勸業課へ引継可然哉此段相伺候也

〔別紙〕

札幌農学校附屬農園地及畜類等返納ノ分

一	廿一万千七百六拾貳坪余	墾成地
一	内 三千貳百坪余 八百六十三坪余	道路地 墾地
一	百九拾七万八千余坪	荒蕪地
一	アキシヤ種牛	貳拾九頭内牝十九
一	短角種牛	三拾頭 内牝十八
一	雜種牛	拾九頭 内牝十九
一	耕馬	九頭 内牝
一	豚	三拾三頭内牝三十
一	製糖所	老棟
一	但製糖器械付属	
一	札幌農学校へ属セシムル分	
一	農園	
一	アキシヤ種牛	拾頭内牝八
一	短角種牛	貳頭内牝一
一	雜種牛	貳頭内牝一
一	耕牛	四頭
一	耕馬	六頭
一	右ニ要スル地積	
一	廿二イーカ	牧草
一	三十九イーカ	飼穀

一	三十イーカ	生徒実験及放牧場
一	合計拾壹万〇七百拾五坪内湿地アリ	
一	八千六百貳拾九坪	道路家屋敷地
一	豚	拾頭内牝貳
一	拾万余坪	荒蕪地
一	但シ略図朱線内ノ荒蕪見込	
一	家屋及農具	
一	払下及貸与処分	
一	アキシヤ種牛 牝貳頭	御雇教師ブルツクスへ牝払下 静岡県土族平田貞次郎へ牝払下
一	雜種牛牝	壹頭 御雇教師ブルツクスへ牝下
一	一回雜種馬牝	貳頭 是ハ当区照井徳治外一名へ牝下
一	雜種牝牛	是ハ御雇教師ブルツクスへ牝下
一	豚	四頭 牝二 是ハ牝牝壹頭ツ、農務局へ貸渡ス分 牝二 外貳頭新潟農学校へ牝下ノ分
一	*	
一	覚書	

農園地ノ義菊亭修季へ貸渡スコトニ長官御決定ニ付別紙
伺書ハ自然消滅ニ属セリ帰札ノ上返却モノ (印) (丹羽友十郎)

〔注〕 略図を略す。

六二九 校長委任条項制定の達

其校長委任条項別紙之通相定ム

但所分濟其月分翌月五日限報告スヘシ

右相達ス

明治十九年四月九日

北海道長官岩村通俊

農学校

〔別紙〕

- 一 授業時間ヲ變更スル事
- 一 校員ノ分担ヲ定ムル事
- 一 一定限以内ノ生徒募集及入学ノ事
- 一 但本科生退学ハ此限ニアラス
- 一 生徒ニ卒業証書ヲ付与スル事
- 一 但学位状ヲ付与スルハ此限ニアラス
- 一 本校経費内ヲ以博物見本採収又ハ学科研究ノ為メ生徒ニ管内旅行ヲ許可スル事
- 一 生徒野營及近傍行軍演習ヲナシムル事
- 一 生徒貸与金品成規ニヨリ交付スル事
- 一 販売予定伺済範圍内ノ生産物及製造物ヲ売却スルコト
- 一 博物学用見本物品他ノ学校等ト交換スル事

- 一 校務ニ関シ校長若クハ校名ヲ以テ文書往復ノ事
- 一 校員本庁管内出張ノ事

- 一 予算内ヲ以テ雇及現業取扱人以下進退ノ事

- 一 校務取扱細則ノ事

- 一 博物場縦覧日時ヲ定限スル事

- 一 校員生徒并札幌卒業生ヘ書籍借覽差許ノ事

- 一 相当代品等戻入ノ約ヲ以分析ノ依頼ニ応スル事

- 一 他官庁又ハ人民所有ノ物品博物場ヘ陳列ヲ許可スル事

- 一 本校所屬家畜交尾願ヲ許否スル事

〔農二九二〕

六三〇 教頭心得の職務に付申入

貴下教頭心得職務左之通り御心得相成度此段申進候也

- 一 教授上ノ得失ヲ監査スルコト
- 一 毎学期課程ノ組替ヲナスコト
- 一 年報編纂ヲ掌ルコト
- 一 校長ノ顧問トナリ意見ヲ具申スルコト

明治十九年四月九日於札幌

農学校長森源三

ウキリアムビーブルツクス貴下

〔農二七六〕

六三一 卒業生を北海道吏員に充てる儀伺

明治十九年四月十二日

長官

農学校長(印)(森)

農学校卒業生ヲ北海道吏員ニ充ツルノ義ニ付伺

農学校卒業生ハ開拓使ノ時総テ同使ニ奉職セシムルノ制規ニ候処明治十三年官費生ヲ廃シ貸費生ヲ設ケ尋テ農商務省ヘ転轄後各自ノ隨意ニ任セ官吏志願ノ者アル時ハ北海道事業管理局ヨリ各官庁ニ紹介スルニ止リタリ然ルニ元來農学校設立ノ目的ハ単ニ北海道開拓ニ利用センカ為メナルヲ以テ教授ノ方法モ亦之ヲ米國ニ採リ彼國ノ教師ヲ聘シ其實業ヲ伝習シテ専ラ本道ノ開拓ニ適スヘキヲ主眼トセルモ卒業ノ後ハ前陳ノ如ク各自ノ隨意ニ任セ必スシモ本道ニ從事セシムルニアラサルヲ以テ各自其志操ヲ異ニシ學術モ亦其好ム所ニ偏シ本校目的ノオラ養成スル能ハサルノ憂有之候就テハ先ツ卒業後ハ総テ本道吏員ニ充ツヘキノ制ニ被定生徒ノ方向ヲ示スルノ必要ヲ感シ候間右御裁決ノ上ハ校則修正等之都合モ有之候ニ付至急御指揮ヲ仰キ候也

但現今在学ノ生徒モ卒業後志願之者ハ本文ニ準シ取扱之義御裁可相成度左候ハ、当校之本庁ニ属セシ所以之旨趣モ短の貫徹可致義ト存候条此段副陳候也

〔農二二五〕

六三二 卒業生に関する上請書に追加の件取計方依頼

校第六七号

農学校生徒卒業之上ハ本庁吏員トシテ本道ニ從事云々ノ上請書中別紙之主意増補致度如何トナレハ渾テ当道ニ從事セシムルノ成規ト相成候テハ開拓使當時之実況ニ於テ入学志願人ノ些少ニ苦候例も有之尤も其當時ト今日ノ時勢ハ自ラ相違致居候得共其他府県等より特ニ有用之者入学修業依頼越候場合ノ都合も有之候ニ付該書未タ御手元ニ有之候ハ、別紙御追加御取計奉願候

明治十九年四月十五日

森農学校長

鈴木理事官殿

〔農二二六〕

〔注〕別紙は六三三を参照。

六三三 私費卒業生進退に付上請

学第一五号

明治十九年四月十五日

農学校長

長官

理事官

私費卒業生進退之義ニ付副請

本月十二日附無号ヲ以テ今后招募入学之者卒業之上ハ本支庁吏員トシ本道ニ從事セシメ候様御制定相成度旨上請候処私費修業卒業之上進退各自之随意ヲ入学之節特ニ願出候者ニ限り其意ニ任セ候様致度此段副テ上請候也

〔農二四六〕

六三四 元教頭クラーク死去に付記念式等施行の伺

第三拾四号

明治十九年五月二日

高田信清^⑤

長^⑤〔森〕

事務員^⑤〔實〕^⑤〔益〕

本校旧教頭タリシ米国人クラーク本年三月九日病死之旨通報有之就テハ右功勞紀念ノ為メ明三日諸科休業相成リ午前十時彼ニ縁故アル本校職員等演武場ニ相会シ該紀念ノ意ヲ表セラレ候義ニ付別紙参会ノ次序及ヒ達按之如ク取計可然哉此段相伺候也

達按

本校前教頭米国人クラーク開設ノ功勞特クニ署^{〔マヤ〕}シク候処本年三月九日病死ノ旨通報有之候ニ付明三日紀念ノ為メ休業ス但シ前十時演武場楼上ニ到リ一同紀念ノ意ヲ表ス可ク

右内達候事

明治十九年五月二日

校長森源三

参会ノ次序

- 一 当日午前十時一同演武場ニ参会ス
- 一 校長クラークノ本校ニ功勞アリシ処今般病死ノ旨ヲ聞キ且ツ傷ミ且ツ紀念ス可キ旨ヲ以テ催会ノ故ヲ告ク
- 一 教頭心得ブルツクス同氏ノ来歴ヲ陳ス
- 一 教師カツター同氏ノ稟性并ニ軍事上ノ寄功ヲ陳ス
- 一 助教大島卒業生徒ニ代リ同氏ノ生徒ニ与ヘシ感覺及ヒ偉功ヲ陳ス

一 助教内田同氏ニ業ヲ受クル僅々八ヶ月ナルニモ拘ハラス其紀念スヘキ利益ヲ陳ス

右畢テ参会人一同ニ茶菓ヲ与フ

但シ学生ハ食堂ニ於テスヘシ

第一席 演武場楼上

会场〔図略す〕

第二席 二号教場

物品列場

大略クラーク氏開校ノ演説書

黒田長官同断

前校長調所同断

クラーク并ニホキラー写真外種々

已上

〔農二八二〕

六三五 宮部金吾渡瀬庄三郎米国へ留学の儀上請

学第一七号

留学生人撰并学資等支途之義上請

植物学専修

東京下谷区下谷松木町二番地士族
宮部英樹弟
宮部 金吾
當時本校助教
万延元年三月七日生

動物学専修

静岡縣駿東郡東沢田村士族
渡瀬庄三郎
當時本校研究生
現住所東京牛込区牛込南町拾七番地

先般相伺候米国へ留学生之義許可相成候ニ付テハ前記之通り人撰仕候右兩名義ハ本校卒業之上尚元東京大学ニ於テ二ヶ年間植物及動物学専修候者ニ付宮部ハ米国ボストン府ハーバード大学ニ於テ植物学渡瀬ハ同国ボルチモール、ジョンズホップキンス之大学ニ就キ動物学（但本道へ植物集等ニ虫書多有之ニ付就中虫学ニ注意セシメ度見込）之研究為致度候間兩名へ留学被命度学資之義ハ曩ニ概算ヲ以テ伺出候処該費ハ米国瑪州農学校ニ要スル所ノモノニ有之前条之兩大学地方ハ物価高直寄宿并賄料等ニテ不足ヲ可生旨御雇教師ヨリモ申聞候ニ付学資トシテ毎月銀貨七拾弗宛御給与相成度且右学資及旅費共特別之御評議ヲ以テ別途御支出相成候様仕度此段上請候也

明治十九年五月三十一日

札幌農学校校長森源三印

北海道庁長官岩村通俊殿

追テ兩名留学被命候上ハ来ル七月中派遣為致八月下旬ヨリノ学期ニ間ニ合セ候様致度此段添申候也

付 卒業生米国へ留学の儀に付上請

内閣批第九号

北閣第九号

農学校卒業生米国へ留学ノ義ニ付上請

当庁所轄札幌農学校学課ノ義ハ農学及之ニ関係スル諸学芸ヲ教授スルガ為メ科目自カラ多数ニ涉リ適當ノ教員ヲ得ルハ頗ル困難ニ有之從來米国マサチユセツ農学校教頭以下卒業ノ者数名ヲ雇入レ本校教授ヲ掌ランメ本邦人ヲ以テ補助為致置候得共素ヨリ永遠ノ策ニ無之漸次本邦人ノミヲ使用候見込ニ有之然ルニ教授ノ任タル學術経験兩ナカラ具備スルモノニ非サレハ其任ニ堪ヘス其人ヲ得ルト否トハ生徒學術上ニ関係ヲ及ホスコト不尠就テハ目下米国ニ於テ修学致居候農学士荒川重秀佐藤昌介二名当秋満期相成候間更ニ本校卒業農学士ノ内ヨリ二名ヲ精撰シ植物学及動物学研究トシテ米国へ三ヶ年間留学ヲ命セラレ帰朝ノ後本校教授ニ従事セシメ候様仕度学資并旅費概計書相添此段上請仕候也

明治十九年四月三十日

北海道庁長官岩村通俊印

内閣總理大臣伯爵伊藤博文殿

〔朱書〕
「上請ノ趣認許ス」

明治十九年五月六日」印（内閣總理大臣之印）

〔注〕別紙を略す。

〔農二四六〕

六三六 校則改正に付伺

校第一三六号

本校々則之義ハ兼テ御詳知之通旧開拓使ヨリ引続キ今日ニ襲用致シ
来リ候モノニテ往々不完全ナル廉有之然ルニ今般卒業ノ後ハ綜テ当
庁ヘ御採用可相成趣旨ニ依リ旁以テ本則ヲ修正シ別紙上申附冊之通
リ御改定相成度ト存シ候条其筋ヘ可然御稟請被成下度此段及御依頼
候也

明治十九年五月

札幌農学校校長森源三印

北海道庁理事官鈴木大亮殿

〔別紙一〕

学第拾六号

校則改正之義ニ付上申

本校生徒卒業ノ後ハ綜テ当庁江御採用相成候見込ヲ以テ校則修正ヲ
要シ候廉モ有之候ニ付即チ別冊之通り御改定相成度此段上請仕候也

明治十九年五月

北海道庁長官岩村通俊殿

〔別紙二〕

札幌農学校規則

本校ノ主旨

第一条 札幌農学校ハ北海道庁ノ所管ニシテ農事ニ関スル諸學術ヲ
教授スル所トス

第二条 札幌農学校ニ於テ全科卒業ノ者ハ五ヶ年間北海道庁ニ奉職
スヘキモノトス

入学退学

第三条 学生ハ本校予備科ヨリ入ルヲ正規トス然レトモ其人員不足
ナルトキハ別ニ招募スルコトアルベシ

第四条 新ニ入学ヲ願フ者ハ年齢満十七歳以上品行方正ニシテ左ノ

試験課目ニ合格スルモノ

英語（読書応対文法作文）

地理学及地文学史学（万国史ノ類）

物理学（大意）

生理学（大意）

数学（算術代數幾何）英文翻訳

漢文学（史記文章軌範ノ類）

札幌農学校校長森源三印

体格

第五条 学生ハ毎月授業料金五拾銭其入舎ヲ乞フモノハ衣食等ノ雜費トシテ凡金八円ヲ前納スルモノトス

第六条 左項ニ当リ在校セシム可ラサルモノト認ルトキハ退校ヲ命ス

一 校則ヲ犯シタル者

一 本校職員ノ説諭ヲ用キサル者

一 品行方正ナラサル者

一 学力不充分ナル者

一 病ニ罹リ修学スヘカラサル者

第七条 卒業ノ後チ特ニ事業ヲ謀リ本道若クハ佗ニ従事セント願フトキハ其事情ニ依リ詮議ノ上許可スルコトアルベシ

第八条 保証人ハ東京若クハ札幌ニ住シ丁年以上ニシテ一家計ヲ立ツ者トス

但保証人死亡若クハ東京札幌ノ外ニ転住スルトキハ直ニ代人ヲ撰ヒ更ニ証書ヲ書改ムヘシ

学 曆

第九条 学年ヲ分ツテ前後二期トス前期ハ八月第四木曜日ヨリ十二月第四水曜日ニ至リ後期ハ一月第三木曜日ヨリ七月第一水曜日ニ至ル

第十条 休業ハ日曜日ノ外左ノ如シ

秋季皇靈祭 秋分日

神嘗祭 十月十七日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月廿三日

冬季休業 自十二月第四水曜日ノ次日
至一月第三木曜日ノ前日

孝明天皇祭 一月三十日

紀元節 二月十一日

春季皇靈祭 春分日

春季休業 自四月第四月曜日
一週間

神武天皇祭 四月三日

札幌神社祭 六月十五日

夏季休業 自七月第一水曜日ノ次日
至八月第四木曜日ノ前日

教 則

第十一条 学生修学ノ期ヲ四年トス其踐履スヘキ科目左ノ如シ

第一年級

前期

毎週時間

農学 三時

化学の物理及無機化学 六時

代数 六時

英語	五時	幾何画法	一時半
解剖学生理学及健全法	四時	農業實習	六時
農業實習	三時	練兵	二時
練兵	二時	後期	
農學	四時	農學	四時
日本農學	二時	植物學	六時
有機化學及分析	十時	定量分析化學	四時
幾何	四時	量地術	四時
英語	三時	量地術實驗	三時
農業實習	六時	星學	三時
練兵	二時	歷史	五時
第二年級		數學画法及製図	三時
前期		農業實習(試驗)	
農學	五時	練兵	二時
日本農學	二時	第三年生	
農用化學及實驗	八時	前期	
顯微鏡用法	三時	果樹栽培法及園芸	六時
三角術及円錐曲線法	四時	農業沿革及統計	二時
農家記簿法	二時	植物學	六時
		動物學	三時

重学	四時
地誌学	三時
地誌測量及製図	六時
農業実習（試験）	
練兵	二時
後期	
牧畜法	六時
地質学及金石学	五時
動物学及養魚法	五時
物理学	六時
農業実習（試験）	
練兵	二時
第四年級	
前期	
農産製造法	四時
森林学	一時
昆虫学	二時
農学上討論	二時
獣医学	六時
物理学及氣象学	六時

農業実習（試験）	二時
練兵	
後期	
農家經濟及規律	四時
養蜂及養蚕法	二時
農用土木学	六時
獸医学及実驗	九時
經濟学	四時
演説	一時
農園管理法	
練兵	二時
卒業論文	
試驗及卒業	
第十二条 試験ハ各学期ノ終ニ於テ之ヲ行フモノトス	
第十三条 各科ノ評点ハ一百ヲ以テ最高ト定メ日課評点平均数ト期 末試験評点数トノ和ヲ二分シテ得ルモノトス	
第十四条 諸科平均評点ハ各科ノ評点ニ其課程時間數ヲ乗タルモノ ヲ合シ課程時間ノ總數ヲ以テ除シ之ヲ得ルモノトス	
第十五条 諸科平均評点數五十未満ノモノハ落第トス	
第十六条 評点數五十未満三科以上ニ及フトキハ落第トシ二科以下	

ハ再試ヲ行フコトアルヘシ

第十七条 全科四年ノ課程ヲ終リ各学期ニ於テ得タル点数ヲ平均シ五十点以上ノモノニ卒業証狀ヲ授ク但歩兵操練科ニ限り特ニ卒業証ヲ与フ

貸 費

第十八条 学生貧困ニシテ修學ノ資力ナキモノハ願ニ依リ貸費生ト為シ學費ヲ貸与スルコトアルヘシ

第十九条 貸費ヲ願フモノハ更ニ第四号書式ノ願書ヲ出シ許可ノ後チ第五号ノ証書ヲ出スヘシ

第二十条 貸与ノ金額ハ一年凡九拾六円ヲ目的トシ入舎中衣服筆紙等現品ヲ以テ給シ或ハ本校ノ便宜ニ随ヒ其代金ヲ以テスルコトアルベシ

第二十一条 貸費ハ在舎中ニ限ルモノトス然レトモ學術研究ノ為メ許可ヲ得テ他行スルトキハ更ニ相当ノ費用ヲ給スルコトアルヘシ

第二十二条 貸費ノ返納ハ卒業後滿一年ノ翌月ヨリ金三円ツ、月賦ヲ以テスヘシ

第二十三条 定期試験ニ欠席スルモノ及ヒ學力不足ニシテ落第スルモノハ貸費ヲ止ムルモノトス

但時宜ニヨリ再ヒ之ヲ給スルコトアルヘシ

第二十四条 貸費生自ラ請フテ退校シ又ハ第六条ノ場合ニ於テ退校

ヲ命セラレシ者ハ貸与ノ金額即時ニ返納スヘシ

但シ病氣ノ為メ退校ヲ命セラレシモノハ事情ニヨリ貸費ノ返納ヲ免除スルコトアルヘシ

研究生

第二十五条 本校卒業生ニシテ既修ノ学科ヲ尚研究セント願フモノハ之ヲ許可スルコトアルベシ

第二十六条 本校卒業生ノ中ヲ撰ヒ學資ヲ給シ研究生ト為スコトアルヘシ然ルトキハ第七号ノ証書ヲ出シ滿期ノ上北海道庁ニ其學資ヲ受ケタル月數ノ時間尚就職スル義務アルモノトス

第二十七条 研究期限ハ一ケ年以上四ケ年以下トス

第二十八条 研究滿期ノ上ハ其学科ニ就キ論文ヲ作り之ヲ校長ニ出スヘシ

第二十九条 研究生ハ授業料ヲ要セス書籍器械藥品等ノ貸付及給与ハ学生ニ准スルモノトス

予備科

第三十条 札幌農學校ニ予備科ヲ設ケ本科ニ入ルノ階梯トス

第三十一条 予備科第四級ニ入学ヲ願フモノハ年齡滿十三年以上身体壯健ニシテ左ノ試験課目ニ合格スルヲ要ス

英語初歩 算術(分数) 漢文学(日本外史)

第三十二条 予備科生徒ハ本科卒業ノ都度召募スルモノトス

但シ各級欠員アルトキハ臨時試験ノ上入学ヲ許スコトアルヘシ			
第三十三条	予備科入学志願ノ者ハ第八号書式ノ願書及履歷書ヲ出シ其許可ヲ得タル者ハ在札幌ノ父兄若クハ相当ノ保証人ヲ立テ第九号書式ノ証書ヲ出スヘシ	地理初歩 会話 和漢学 習字	三時 三時 三時 三時
但保証人不在ノトキハ代理人ヲ届ケ出ツ可シ		第三級	
第三十四条	予備科生徒ハ入舎ヲ許サス毎月授業料金五拾錢ヲ納ム	前期	
ヘシ			
第三十五条	予備科学暦試験及退学等渾テ本科ニ准ス	文法初歩	三時
第三十六条	予備科生徒修学ノ期ヲ四年トス其践履スヘキ科目左ノ如シ	綴字書取及作文 算数学 地理書 和漢学	三時 三時 六時 三時
第四級			
前期		後期	
読法及訳読	毎週時間 六時	読法及訳読	三時
解字綴字及書取	同	文法	六時
会話	三時	綴字書取及作文	三時
和漢学	同	地理書	三時
習字	六時	算数学	六時
後期		和漢学	三時
読法及訳読	六時	第二級	
解字綴字及書取	同		

前期	
読法及訳読	三時
文法	三時
万国史	六時
書取作文及誦誦	三時
算数学	六時
和漢学	三時
体操	二時
後期	
読法及訳読	三時
歴史	六時
物理初歩	三時
算数学	六時
書取作文及誦誦	三時
和漢学	三時
体操	二時
第一級	
前期	
読法及訳読	六時
地文学	六時

代数学	六時
演説書取及作文	三時
和漢学	三時
体操	二時
農業現術	二時

後期

読法及訳読	六時
演説作文及翻訳	六時
代数及幾何学	六時
生理学	三時
和漢学	三時
体操	二時
農業現術	二時

〔以下第一号より第八号までの入学願書書式等を略す〕

〔農二二五〕

六三七 鯉研究のための出張旅費に付問合

農学校長森源三殿

拝啓然ハ鯉魚研究之為メ三年生引連去ル四月中小樽へ五月中銭函へ
罷越候然ルニ帰校後事務所より何等之御通報も無之候

右者旅費定則ニより償却ヲ可受順序ナルヤ或ハ実費御戻入相成ルニヤ將タ自己ニ係ル費用ハ自辨可致義ニ候哉

本件ニ付テハ既ニ再度事務員迄御話シ致候得共何等御回答無之ニ付事甚些細ニハ候得共不得已爰ニ書面ヲ以テ御注意ヲ願出候頓首

明治十九年六月三十日

ジェー、シー、カッター

札幌ニ於テ

〔カッター四三〕

六三八 佐瀬辰三郎助教として採用の儀上請（八月五日起案）

学第貳八号

助教御採用之義ニ付上請

本校助教月俸金四拾円也

農学士 佐瀬辰三郎

右者明治十七年本校卒業之上教員予備トシテ引続二ヶ年間化学研究申付置候処既ニ満期ニ付頭書之通御採用相成様仕度此段上請候也

明治十九年八月

札幌農学校長森源三

北海道庁長官岩村通俊殿

〔農二四六〕

六三九 長途行軍游泳術演習概則制定の同

第拾壹号

明治十九年八月六日

高田信清^⑧

長^⑧（森）

事務係^⑧（菅）

今般長途行軍游泳演習概則長官伺済ニ就テハ学生為心得相達可然哉
連接相添ヘ此段相伺候也

連接

今般長途行軍游泳演習概則製定候条為心得此段相達候也

但概則ハ取締員ニ就キ一覽可致候事

明治十九年八月 日

札幌農学校長森源三

〔別紙〕

長途行軍游泳術演習概則

第一条 学生長途演習ヲ為サシムル^{〔ママ〕}以所ノモノハ游泳漕舟術ヲ兼ね

歩兵操練科野外勤務等実地ニ研究セシメントスルニアリ故ニ勤勉

以テ其本分ヲ尽サルヘカラス

第二条 演習ハ毎年暑中休業ノ際氣候ヲ斟酌シ一週日以上三週日以下ノ時日ヲ限リ之ヲ施行スルモノトス

第三条 演習ノ地ハ毎年其方面ヲ異ニシ且ツ學術研究ニ適スル壤地

ヲ撰ムヘシト雖トモ游泳及ヒ短艇繰漕ノ術ハ当分石狩河口又ハ銭

函海浜ニ之ヲ肆ハシムヘシ

第四条 演習中ハ該時同行スル首席教員ヲ以テ総指揮役トナス該員

ハ校員及ヒ学生ヲ監督シ演習中ノ諸事ヲ処理セシム

第五條 演習ハ諸事軍隊法令ニ倣ヒ施行スヘキヲ以テ学生ヲ数部ノ

小隊ニ編制シ其小隊長以上ニハ四年生分隊長以下ニハ三年生ヲ撰ムヘシ故ニ教官及学生トモ身辺要具ノ外一切他ノ物品ヲ携帯スルヲ許サス

第六條 長途演習ヲ為スニ当リ特ニ指揮者ノ命令注意ヲ受クヘキモノト雖トモ概ネ学生ノ心得ヲ掲ケ其要略ヲ知ラシム

一 演習中ハ恰モ実戦ニ於ケルカ如ク百般嚴肅ナルヲ要ス

一 活発勇敢一毫ノ美ト雖トモ之ヲ忽諸ニスヘカラス苟モ注意探究スルヲ要ス

一 軍人ノ行為ハ一國ノ權威ニ關ス故ニ行軍中造次ニモ威儀ヲ頌サ、ルヲ要ス

一 一身ハ軍人ノ勤メニ閑シ行ハ学生ノ本分ヲ勉メ以テ到ル処ノ人民ニ感情ヲ起サシムルヲ要ス

一 服従ヲ尊フハ独リ軍隊ニ於ケルノミナラス苟モ温良従順地方人民ニ対シ粗行ナキヲ要ス

第七條 凡游泳ヲ為スニ當リ其地ノ景況ニ依リ特ニ注意スヘキ者アリト雖トモ一般游泳者ノ心得ヲ掲ケ其要略ヲ知ラシム

一 游泳セントスルトキハ先ツ頭部ニ水ヲ灌キ両耳ヲ湿シ且水中ニ在ル間ハ時々頭部ヲ水中ニ浸スヘシ

一 発汗セシ時直ニ入水スヘカラス暫時休憩或ハ払拭シ能ク身体

ノ乾クヲ待ツヘシ

一 飲食セシ后直ニ入水スヘカラス其消化ノ度ヲ慮リ少ナクモ二十分間猶予スヘシ

一 血氣ニ走り又ハ分外ノ耐忍ヨリ過度ノ游泳ヲ為シ身体疲勞ヲ極ムヘカラス

一 罹病者ハ輕症ト雖トモ水ニ入ルヘカラス

〔農二三三〕

六四〇 化学科に定量分析新設に付異議申入(八月二三日受付)

千八百八十六年八月

森札幌農学校長閣下

余ハ本校課程中化学科ヘ定量分析ヲ定規之一課トシテ加入セラル、ヲ聞キ茲ニ一言閣下之注意ヲ請ントスルモノアリ余ハ未タ定量分析之本校定規之一課タリシ事ヲ聞カズ余ガ本校教授之任ヲ辱シ前未タ一全級之之ガ教授ヲ受タルヲ聞カズ此学科新加之適否ニ關シ余ハ其議ニ与ラザリシナリ然レハ余ガ受持之教科即余ガ教授セザルベカサル課程中新ニ一學課ヲ加入セラレ而テ余ハ其議ニ与ラサルノミナラズ又御報知ヲ蒙ラサリシナリ定量分析化学之本校成規之一課トシテ加ヘラレタル事ヲ余ハ始テ之ヲ聞ケリ本校課程上ニ於テ此變革ハ甚其宜キヲ失ヒ本校之不幸ト見做サバ爾ヲ得ズ此新加之宜キヲ得

ザルコトハ化学専門者ノミナラズ當時化学之一班如何ヲ知レル者ニハ一目瞭然タルベシ化学専門之教館ニアラズシテ定量分析ヲ一課ト定ムルハ世界中余ハ其例アラサルベシト信スルナリ然ラハ札幌農校ニ於テノミ何ゾ斯ル例外之所為ヲ採ランヤ之ニ反シテ本校ニ於テ此學課ヲ教授スルノ不利ナル其理由多シ

第一之ヲ一級同時ニ教授スルヲ得ズ人々之受業必各異ナリ且下本校化学場機械之供備一時五人以上ニ給スルニ足ラズ故ニ一級十五人トスルトキハ一時ニ教授スルトコロ級之三分一ニシテ此一分之授業間者他之二分徒ニ時間ヲ消過スルノミ故ニ之ヲ他之学科ニ比スルニ同一之時間ヲ費シ生スル所之益ハ其一分ニ過キズ

第二定量分析ハ一モ新理アルモノニアラズ要スル所ハ唯業ニ熟スルニアルノミ故ニ化学専務者ニアラザレハ其用ナキナリ仮令充分之時日ヲ与テ之ヲ學バシムルモ其実用之功ヲ見ルヲ得ベキハ学生五人中其一ニ過キザルベシ又其技ニ熟スルモ器械之供備完全ナル化学場ニ出入之自由ヲ得ルニアラザレハ之ヲ応用スル事能ザルベシ

第三前述之事情ハ学生中充分了知セラルベク或ハ定量分析之受業ヲ冀望スル者アリトスルモ化学科之区域甚広クシテ定量分析之外他ニ猶一層要用ナル諸学科アル事ヲ知ラルベシ学生中未タ余ニ定量分析之教授ヲ請タルモノアラズ之ニ反シテ課程中其設アラサル諸学科ニ付テ其教授ヲ請者往々之アリタリ

第四定量分析者最も多ク入費ヲ要スル學課ニシテ分析用藥品硝酸銀塩化白金之如キハ甚高価ナルモノニシテ十五人之一級ヲシテ一期中全ク之ニ從事セシメバ其費用拾万円ニ下ラサルベシ斯ク多額之入費ヲ要スルモ其益多カラズ此時間ヲ猶一層有益之授業ニ用ユルヲ得ベシ

第五定量分析之業ハ其從事スル所各自相異ナルヲ以テ学生中化学之熱望者ニシテ之ニ適セル天稟アル者数名ヲシテ之ヲ學ハシムルモ可ナラン若シ学生中志願者アリテ余之ヲ其學課ニ適セルト認ルニ於テハ余ハ之ヲ教授スルコト満悦ニ堪ザルベキナリ

從來之化学教授時間ヘ新ニ一課ヲ加ラル、事ハ余甚之ヲ賛成スルナリ然共其学科タル其応用最モ多ク後來之実益最モ多キ者ナラザルベカラズ

余ハ已ニ定量分析ハ化学科中如斯學課ニアラザル事ヲ辨明セリ若シ今ヨリ化学科ヘ新課目之編入アランニハ余ガ本校ヘ盟約期限内唯一期ヲ余スノミナルカ故ニ余ハ化学科中此地位ニ当ルベキ要用之學課ヲ指名スベシ即農芸化学動物化学製造化学是レナリ是等者課程中皆其設アランヲ望ト雖モ今ヤ一課ヲ挿入スルノ余地アルノミ之ヲ百般之点ヨリ熟考スルニ余ハ其益動物化学ニ勝ルモノアラスト信スルナリ之レ此学科ハ其渉ル所一般要用之事實ニ関スルノミナラス後來當時農學士諸氏之占ラル、如キ地位ニ立ントスル学生ニハ其實用特ニ

大ナルベシト信スレハナリ

H. E. Stockbridge

エーチ、イ、ストックブリッジ

〔印〕（農家畜密場）

〔ストックブリッジ七六〕

六四一 農園地の内約二二〇万坪引渡の儀伺

明治十九年八月 日

長官^⑨（岩村）

農学校^⑨（森）

農園地分画之件

所屬農園地之内別紙^⑨面之通朱引内之分ハ生徒実業圃トシテ本校屬

地ト相定其他ハ悉皆勸業課ヘ引渡可然哉左ニ地積摘記此段相伺候也

本校ニ屬セシムベキ分

一 拾貳万貳千四百七拾五坪〇七

耕地

内 貳千九百五拾四坪

道路

一 五千貳百六拾六坪五五

家屋敷地

一 拾万坪

荒蕪地

ノ

勸業課ヘ引渡スベキ分

一 貳拾万四千四百五拾四坪

耕地

内 貳千八百四拾貳坪五卷

道路

七百三拾貳坪五五

掘割

四千貳百拾九坪五卷

湿地

一 貳百万六千三百五拾壹坪四七貳六

荒蕪地

内 百万八千拾四坪壹四

農園内荒蕪地

九拾九万八千三百三拾七坪三三貳六

篠路村荒蕪地

ノ

〔注〕 別紙図面を欠く。

〔農二四六〕

六四二 農芸化学講義内容通知等の件

明治十九年九月七日於札幌

森農学校長殿

拝啓然ラハ農芸化学講義ヲ為スニ材料準備之為メ少シク時日ヲ要セシヨリ是迄之ヲ始ムルニ至ラザリシカドモ今ハ既ニ準備ヲ完了セリ余ハ日本学生之為メ此教授ヲシテ可成価値アラシメンヲ欲シ化学ヲ適用シテ有益ナル農業上必要ノ術業ハ何レモ本課程中ニ組入レントセリ然レトモ余ハ日本ノ術業ヲ知ルコト甚タ少キヲ以テ重要ナル事項ノ中或ハ遺忘スル所ナシトセス依テ今課程中ノ事項ヲ掲ケ目錄トシ閣下ノ電覽ニ供セントス閣下若シ日本術業中重要ナルモノニシテ

表中遺忘セルモノヲ発見セバ幸ニ余ニ告グルアランコト余ノ大ニ満
足スル所ナリ

本講義ニ出席スベキ学生ニ関シ爰ニ聊カ誤解ノ廉アリ余ハ佐瀬氏ヲ
経テ閣下ノ定量分析ヲ止メ代フルニ農芸化学ノ講義ヲ以テスルコト
ニ決定セラレタルヲ聞ケリ然ルニ教師ブルツクスハ三年生ノ該分析
ヲ有セルコト并四年生ノ該講義ニ出席スベキコトヲ告示セリ願クハ
閣下本議ヲ裁シ生徒ニ告グルニ閣下ノ決意ヲ以テセラレンコトヲ謹
啓

エツチ、イー、ストツクブリツジ

〔別紙〕

農芸化学講義中ニ含蓄スベキ事項目録

第一部 農産物利用ニ適用スル化学

- 一 麵包
- 一 スターチユ (澱粉)
- 一 グルユーコース (糖類ニシテ葡萄等ヨリ搾取セルモノ)
- 一 砂糖
- 一 麦酒
- 一 蒸餾酒
- 一 酒
- 一 酢

一 牛乳 (牛酪乾酪)

一 肉類保存法

一 青草^{草牧}保存法

一 製革

一 木綿製造

一 毛布製造

一 絹布製造

一 亜麻

一 麻及デユート

一 紙

一 煙草

一 揮発油及樹脂

一 漆器業

一 薪 (木、炭、炭団)

一 茶、珈琲

一 ベジタブルダイスタツフ (植物色素)

一 第二部 農用品供給ニ適用スル化学

一 肥料製造

一 塩

一 瓦

一 木保存法

〔ストックブリッジ七八〕

六四三 農産製造法に代えて農芸化学新設に関し異議申入

明治十九年九月十日札幌ニ於テ

農学校長森源三殿

拝啓余ハ只今橘教授ヲ經テ閣下カ当期間三年生ノ定量分析ニ代フルニ農芸化学ヲ以テスベキ旨余ニ通知セラレザリシトノ義ヲ承レリ余ハ本件ニ付テハ是迄佐瀬氏ヨリ聞ク所ノ外何等ノ通信ヲモ得ザリシトノ義ヲ敢テ言上セント欲ス即チ或日午前閣下ハ三度ビ佐瀬氏ヲ余ニ遣ハセラル余ハ其二度（終リノ二度）共ニ佐瀬氏ヨリ同一ノ口狀ヲ承レリ而シテ其口狀トハ閣下カ定量分析ニ代フルニ農芸化学ヲ以テスベシト決定セラレタルノ義ニシテ曾テ四年生ニ付テハ何等ノ談ナク又農産製造法ノ如キスル課目カ本校課程ノ一部ヲナセルコトニ付テモ更ニ論及スル所アラザリシ畢竟本件農芸化学教授之義ハ余自身ノ建言ニシテ素ト此課目ハ本校課程中ニ存在セザルモノナリ余ハ此課目ヲ以テ定量分析ニ代ラシメンコトヲ申込メリ然ルニ余ハ今農産製造法ニ代フルニ此課目ヲ以テスベキヲ聞ク然レトモ該製造法タル素ト農学科ニ属スルモノナリ故ニ余ハ願フ何カ故ヲ以テ余ノ承引ヲモ求ムルナク農学科ニ属スル事業ヲ余ニ付セラレタルヤヲ探究セ

ラレンコトヲ余ハ適良ニシテ且充分ナル理由ニ基キ化学課程中ノ一課目ニ代フルニ是迄該課程中ニ存セザルモノヲ以テセンコトヲ申込メリ然ルニ余ハ此建言ニ答ヘラル、所ナク却テ他科ニ属スル講義ノ一課ヲ付セラレタルノミニテ化学課程ニ於テハ一モ変スル所ナキ旨ヲ通知セラレタリ

若シモ閣下ニシテ定量分析ノ教授ヲ希望セラレンニハ余ハ余ノ力ノ及バン限り余ノ長上ノ命ニ従ハンコト常ノ如クナルベシ然レトモ余カ職ヲ本校ニ奉スル所以ノモノハ要スルニ化学及地質學ノ教師タルニ過キザルナリ

余ハ畏レ多クモ余ノ同意ヲモ求メラレズシテ余ニ付セラレタル他科ノ事業ヲ甘受スル能ハズ

今ヨリ向フ一期ノ間各級共ニ化学ノ課アリ此定課ヲ成シ遂ケ又ハ化学科事業ノ拡張改良ニ補ヒアラシメンカ為メ特ニ一層ノ勤勉ヲ要スルアラバ余ハ喜ンテ之ニ従事センヲ欲スルナリ然レトモ余ハ教官諸氏ノ情意ヲ満足セシメ又ハ其勤勉ヲ助ケンカ為メ余ニ属セサル職務ヲ取ル能ハズ敬具

エツチ、イー、ストックブリッジ

〔注〕

欄外に「本文農芸化学ハ農用技芸化学ト訳スル方可ナラン歟」との朱書あり。

〔ストックブリッジ八〇〕

六四四 定量分析講義担当了承等の件（九月一六日受付）

森農学校長殿

拝啓然者定量分析ニ関シ御通知之趣拝承即チ明日ヨリ始業可仕候得共是迄曾テ全級江教授候事無之者ニ付到底充分ニハ参リガタキ義ト前以テ御承知被下度蓋シ該分析ヲ為スベキ生徒ニハ毎員エキシケー^{器乾燥}トルヲ供セザレバ定量ノ実ヲ失フ義ニ候処当化学場ニハ生徒ノ用ニ供スベキ同器ハ唯貳個アルノミニ有之故ニ同時ニ貳人以上ハ就業難致候右之事實御熟知被成居候哉否者曾テ御下問ヲ受候事無之ニ付承知不致候得共若シモ御熟知之義ニ候ハ、余ハ唯爰ニ斯ル未聞之不便ヲ有シツ、可及的尽力可致トノ義ノミヲ陳述仕候啓具

エツチ、イー、ストックブリツジ

〔ストックブリツジハ二〕

六四五 米國農学校の景況及び札幌農学校組織改正の意見

（佐藤昌介復命書草稿）

不肖昌介米國滞留中該國農学校ノ景況ル就キ札幌農学校改良上御参考トナルベキ諸項調査可致旨御命令相蒙候ル付致々勉勵各種農学校ノ組織、課程等調査仕リ先般帰朝致候ル付今マ調査ノ諸項ル札幌農学校改正ノ意見相添ヒ謹テ之ヲ閣下ル復ス頓首再拜

明治十九年十一月

北海道庁長官岩村通俊殿

北海道庁属佐藤昌介

目次

米國農学校ノ景況

第一 農学校ノ来歴

第二 農学校ノ組織及經費

第三 農学校ノ課程

第四 農学校卒業生ノ現況

第五 農事試験場

第六 米國農学校ニ就テ評論

札幌農学校ノ組織改正ノ意見

第一 農学校ノ目的ヲ確定スルノ議

第二 農学校ノ課程改正ノ議

第三 研究生撰挙ノ議

第四 農学校ノ利用ヲ広ムルノ議

第五 營業主義ヲ以テ農校園ヲ管理セシムルノ議

第六 官制一定及学位ノ授与廃止ノ議

米國農学校ノ景況

第一 農学校ノ来歴

米國諸州ノ農學校ハ單純ノ農學校ル非シテ農工學校ナリ其來歴ヲ尋ルル実ニ千八百六十二年七月二日ノ法律ニ基ツクモノナリ該法律ヲ按スルニ合衆國政府ハ農工ノ教育ヲ進捗スルカ為メニ公有地ヲ割キ以テ諸州ニ与ヘ農工學校ノ資本ニ供セシメタリ蓋シ土地讓与ノ割合ハ千八百六十年ノ人口統計ニ依リ諸州ヨリ米國々々會江出セル議員ノ多寡ニ随ヒシモノルテ即チ國會議員一人ニ付キ荒蕪地參万エークルノ割合ナリ米國聯邦ノ諸州ハ人口ノ多寡ニ依ラズシテ兩名ノ議員ヲ上院ニ出スモノナリ下院ノ議員ハ人口ノ多寡ニ依リテ其員數ニ不同アリ其多キハ三十余名ル及ヒ其少ナキハ僅カニ一名ニ止ル新ニ聯邦ニ加ハリシ州ニシテ人口未タ多カラズ漸ク舊名ノ議員ヲ下院ニ出スノ州ハ上院議員兩名ヲ合セテ國會議員ノ總數三名トナル故ニ六十二年ノ法律ニ依リ米國政府ヨリ受クル所ノ荒蕪地ノ面積九万エークルナリコロラド、ネブラスカ、ネバタ等ノ新州ハ即チ各九万エークルヲ受ケタリ之ニ反シヨルク、ペンシルバニア等諸州ノ如キ人口ノ稠密ナル州ハ広大ナル土地ヲ受ケタリ即チ紐育州ハ九拾九万エークルペンシルバニア州ハ七拾八万エークルヲ受ケタリ六十二年法律ノ發行ヨリ七十六年コロラド州ノ聯邦ニ加盟セシ迄米國政府ヨリ諸州ヘ讓与セシ荒蕪地ノ面積ハ九百六拾万エークル即チ我參百八拾七万町歩ナリ

合衆國ノ斯ク廣大ナル土地ヲ諸州ニ讓与スルモ之ヲ創業費ニ使用ス

ルヲ許サスソノ土地ヲ売却シテ得シ所ノ金額ハ則チ之ヲ合衆國或ハ諸州ノ公債ルシテ五朱已上ノ利足ヲ生スル確實ナル財本ニ交換シ之ヲ學校永遠ノ資本トナシ独リ其利金ヲ以テ經費ニ充ツルヲ許セリ而テ創業費ハ諸州ニ於テ適宜準備セザルベカラザルモノナリキ如斯中央政府讓与ノ土地ヨリ收入セルモノヲ資本トシテ創設セル學校ニ於テハ独リ農學ノミナラズ工芸ニ關スル學科ヲモ教授シ且ツ兵學ノ一科ヲモ設クベキモノタリ故ニ中央政府ノ主眼トセル所ハ農工兼兵學校ヲ聯邦ノ諸州ニ起スニ在リシモノナリ

聯邦諸州ニ於テ土地ヲ売却シテ得シ所ノ金額ハ九百万弗ノ多キニ及ビ而シテ諸州ノ立法院ニ於テ準備セルモノ或ハ地方有志者ノ寄附ヲ以テ購求セシ學校用地、建築物、器械類ハ千八百八十二年ノ調査ニヨレバ六百五拾參万弗余ノ価直アリ故ニ農學校ノ資本ハ米國ニ於テ總計千五百五拾參万弗ノ額ナリ聯邦諸州ノ内未タ尽トク土地ヲ売却セザルモノアルヲ以テ之ヲ売却スルトキハ蓋シ其資本ハ該額ニ止マラザルベシ

コノ法律ノ精神ニ遵ヒ諸州ニ於テ設立セシ農工學校ハ現今參拾余校ニ及フト雖トモ學校ノ管理、教授ノ課程等ハ尽トク諸州ノ定ムル所ニ任セシヲ以テ其方法規律ヲ同フセズ蓋シ人ヲ異ニスレバ方法ヲ異ルスルル依レハナリ

雖然六十二年ノ法律ノ作用ハ之ヲ三種ニ區別シ得可シ甲種ハ法律ノ

精神ニ遵ヒ新規ニ農工専門ノ学校ヲ創立セリ即チメーン、マサチユ

ーセツ、ペンシルバニヤ、ミシシッピ、ミシガン、アイヲア、カ

ンザス、コロラド等ノ諸州ニ於ケル如キ是レナリ乙種ハ農工学校創

立ノ資本ヲ基トシ更ニ大学校ヲ起シ其内ニ農工ノ分科ヲ置キシモノ

ナリ即チニューヨークノコロネル大学ニ於ケル、アラバマ、ケンタ

ケー、テンネシー、ヲハヨ、イリノイ、ネブラスカ、テキザス、

ミネソタ諸州ノ其大学ニ於ケルカ如キ是レナリ丙種ハ法律上ノ土地

ヲ受ケント雖トモ新規ニ農工学校或ハ普通ノ大学ヲ起スヲ務メスシ

テ其土地ヲ従来ノ大学或ハ専門校ニ与ヘ農学ノ一科ヲ其学校中ニ起

サシメタリ即チニューハンプシヤ州ノダートマス大学ニ於ケルロー

ドアイランド州ノブラウン大学ニ於ケルコンネツクチカツト州ノシ

エツフキルド理学校ニ於ケルガ如キ是レナリ

已上ノ三種中従来ノ大学ニ土地ヲ与ヘシモノハ農学ノ振興ヲ務メス

シテ其大学ノ維持ヲ謀リシモノナレバ農学上裨益ヲ生セルコト少ナ

シ新ニ大学ヲ起シ之ニ農工ノ分科ヲ置キシモノハ曩者ニ比スレバ大

ニ面目ヲ異ニセリ即チコロネル大学、イリノイ大学ノ如キ是レナリ

然レトモ六十二年ノ法律ノ最モ利益ヲ生セシハ新規ニ農学校ノ起リ

シニアリ即チメーン、マサチユーセツ諸州ノ農学校ノ如キ是レナリ

第貳 農学校ノ課程

左ニ米國農学校中重立タルモノニ就キ其課程ヲ挙ケ以テ対照比較ノ

便尔供セン

メーン州農学校

課程 四科ル分ツ農学科、土木工学科、器械工学科、理学科ノ四科

是レナリ理学科ニハ農用化学ヲ主トシテ教授シ之レ爾亞ク爾本

草、動物、昆虫、地質、鉱物学ノ諸理学ヲ以テス各学科トモ四ケ

年ヲ以テ卒業ス初年ルハ同一ノ課程ヲ教授シ二ケ年ヨリ各専門ル

分ル、モノナリト雖トモ化学、物理学ノ如キ緊要ナル学科ハ各科

トモ之ヲ教授ス

教官 九名 生徒 九拾貳名

マサチユーセツ州農学校

課程 該校ノ課程ルハ別尔分科ナシ同校ノ生徒ヲシテ専ラ農学、本

草学、化学、動物学、数学ノ五科ヲ修メシム

教官 十貳名 生徒 百貳拾壹名

マサチユーセツ州農学校ハ工学ノ一科ヲ設ケズ該科ハ波士頓技芸学

校ニ於テ教授スル所タルル依ルナリ故尔永遠資金ヨリ生セル利益ハ

之ヲ参分シ其一ヲ技芸学校ル入レ其二ヲ農学校ル於テ受クルモノナ

リ

ペンシルハニヤ州農学校

課程 該校ハ千八百五十九年ノ設立ニ係ル其目的ハ簡易ノ農学科ヲ

教授スルニアリシヲ以テ農業中学校ト称セシガ千八百六十二年ニ

至リペンシルハニヤ州農学校ト変稱シ次テ該州ヨリ中央政府讓与ノ土地ヲ下附セシヲ以テ其規模ヲ大ルシペンシルハニヤ州専門校ト改メ独リ農學ノミナラズ各種ノ専門技術ヲ教授スル所トセリ故ニ課程數科ニ分ル即チ普通理學科、羅甸及理學科、普通農學科、化學及物理學科、土木工學科、博物學科ノ六大學科ニ分チ最初ノ二學科ヲ普通課程ト稱シ最後ノ四學科ヲ技芸課程ト稱スルモノナリ右式種ノ課程ノ外ル簡易課程特別課程ノ式種アリ簡易課程中ルハ農學、化學、婦人文學ノ三科ヲ置キ式ケ年ルテ卒業シ技芸科ハ三ケ年ルテ卒業スルモノナリ特別課程ナルモノハ正則ヲ踏マスシテ學課中ヨリ望ミノモノヲ撰ンテ就學スル便ヲ与ルモノナリ如此課程繁冗ナルカ如シト雖トモ授業ノ順序ヲ整理スルトキハ甚タ簡易ノモノトナル普通課程ハ四ケ年ノ卒業ナリ技芸學科ヲ取ラント欲スルモノハ二ケ年間普通ノ課程ヲ取リシ後ニ移ルモノ故四ケ年間在學スルノ學生ハ最初二ケ年間尽トク同一ノ課業ニ就キ三ケ年目ヨリ各其専門ヲ異ルスルモノトナルナリ然而専門ヲ異ルスルモノト雖トモ各學科同一ノモノアルヲ以テ殊更ニ多數ノ教官ヲ要セス時間割ノ整理其宜シキル適スルトキハ分科ナキ學校ル於テ授業スルト大ナル徑庭ナキモノナリ

教官 拾五名 生徒 六拾七名

ミシユガン農學校

課程 農學科工藝科ノ二科ニ分ツ各四ケ年ヲ以テ卒業スルモノナリ教官 貳拾貳名 生徒 貳百九十五名

已上ノ調査ハ千八百八十五年ノ調査ニ係ハルモノナリ米國農學校中重立タルモノナリ南方ノ諸州ル於テハ黒色人種多キヲ以テ資本金ノ如キモ之ヲ分割セルモノ多シジョールジャ州ノ如キハ一州内ニ四箇ノ農學校ヲ設立シウアルジニヤ州ハ土地ヨリ收入セシ金額貳拾八万五千弗ナリシガ其内拾九万弗ハ白人種ノ農學校ル充テ九万五千弗ハハンムトン師範及農學校ト稱シ専ラ實業ヲ黒色人種ル教授スル學校ノ資本トセリ總テ南方諸州ハ戰亂ノ余嚮ヲ受ケ學事未タ振興セス農學校ノ如キモ漸ク輓近之レヲ創立セリ西方ノ諸州ル於テハ農學校ノ資金ヲ基トシ大學ヲ起シ農學ヲ以テ其一分科トセルモノ多シネブラスカ及ヒミネソタ大學ノ如キ是レナリネブラスカ大學ル於テハ農工ノ兩科ヲ設ケ各四ケ年ヲ以テ卒業スルモノトス最初ノ一ケ年ルハ兩科ノ生徒同一ノ課程ヲ取ルモノナリト雖トモ二ケ年ヨリハ農學科ノ生徒ハ農學ル關係アル學科ルシテ含密本草ノ如キモノヲ重ル學ヒ工學科ノ生徒ハ幾何、製図ノ如キ學科ヲ專修スル至ル且ツ撰科ナルモノアリテ自他ノ學課ヲ撰択交換スルノ便宜アリヲハヨ一大學ル於テハ其課程ヲ二大別シテ普通大學科技術學科ノ二種トナシ技術學科中ル農學科、土木工學科、器械工學科、採鋳工學科、獸醫科ノ五科ヲ置キ又タ別ル簡易科ヲ設ケ農學及藥劑學ヲ教授ス各専門科ハ四ケ

年ノ卒業ルシテ簡易科ハ二ケ年ノ卒業ナリ千八百八十五年ルハ該大學専門生百五十三名ノ内八十九名ハ技術学科ノ生徒ナリ東方諸州ル於テハ農学校ノ資金ヲ從來ノ大学ニ下付セシムアラザレハ新規ル農学校ヲ興セシモノ故該資金ヲ基トシテ更ル大学ヲ起セシモノハ独リ紐育州ノコロネル大学ル於ケルモノ、ミナラン該大学ノ課程ヲ按スルル普通大学科技術学科ノ兩科ル課程ヲ大別スルハ尚ヨハヨ一大学ル於ケルカ如シト雖トモ技術学科中数多ノ分科ヲ置ケリ即チ農学科、建築学科、化学科、土木学科、器械学科、電気工学科、職工学科及医学予備科ノ八科はレナリ医学予備科ヲ除クノ外ハ各専門科トモ四ケ年ヲ以テ卒業ス然ルル農学科ル於テハ最初二ケ年間ハ定規ノ課程ヲ學ブト雖トモ三ケ年ヨリハ學課撰科トナリ毎週少ナクトモ十二時間ハ農學ル關係アル学科ルシテ農用化学、本草学、地質学、昆虫学、園芸学、獸医学、測量学等ヲ學バサルベカラザルモノトス他ノ学科中ルハ研究生学科ナルモノヲ置キ卒業後一ケ年間尚専門学科ヲ修業セシムルノ法アリ即チ土木工学科中橋梁工学、铁道工学、衛生工学、水利工学、測量工学ノ五分科ヲ置キテ研究生ヲシテ尚一ケ年間其志願ノ学科ヲ専修セシム

如斯農学校ノ課程ハ数種ナリト雖トモ之ヲ要スルル単複ノ兩課程ル分別シ得可シ單課程ナルモノハ單一ノ学科ヲ設ケ全校ノ生徒ヲシテ尽トク之ヲ學ハシムルモノナリ即チマサチュ一セツ州農学校コンネ

ツクチカツト州ストワス農学校加奈他領ヲシタリヲ農学校ノ如キはレナリ複課程ナルモノハ複雑ノ学科ヲ設ケ生徒ヲシテ其才能ノ傾向ト其思想ノ指示ル遵ヒ一科ノ専門ヲ學ハシメ或ハ撰科ヲ置キテ彼ヲ捨テ此ヲ撰ムノ便益ヲ与ヒ或ハ事情アリテ数年在學シ能ハザルモノハ簡易特別ノ学科ヲ授クルモノ等此レナリ米國ノ農学校ハ大概複雑ノ課程ヲ置ク殊更ル大学中技術学科ヲ置クモノハ数多ノ課目ヲ設ケ充分専門ノ学科ヲ發達セシムルヲ勤ムコロネル大学ヲハヨ一大学ノ如キはレナリ然而單復ノ兩科トモ其教授スル学科ル至リテハ農學本草、園芸、化学、生理学、物理学、土木学、獸医学、動物学、昆虫学、地質学、鉱物学、器械学ノ諸科ル過キスト雖トモ單一之課程ヲ置ク農学校ニ至リテハ諸科尽トク授業スルモノタルヲ以テ其成果ハ普通ノ學士ヲ出シ複雑ノ課程ヲ置ク学校ニ於テハ専修ノ學士ヲ出スノ傾向アリ如何トナレバ其専修ノ学科ル必用ナルモノ、ミヲ撰ンテ之ヲ授業シ土木工学及器械工学ノ如キハ殊更ル其実業ヲ執ラシメ或ハ工場ル於テ工事ヲ伝習シ或ハ田野ル於テ土工ノ事ヲ担当スルヲ以テナリ

已上ノ諸学科ノ外各農学校ニ於テ兵学ノ一科ヲ教授シ其教官ハ合衆國陸軍士官ルシテ且ツ兵器ノ如キハ陸軍省ヨリ之ヲ供給スルモノタリ又タ農学校ル於テ經濟歴史心理ノ諸学科ヲモ兼テ教授ス此等ノ諸学科ハ社会ル出テ都人タル義務ヲ尽スル必要ナルモノナレバナリ

第四 米國農学校卒業ノ現況

米國農学校ハ教育ノ制度トシテハ未タ幼稚中在ルヲ免レズミシユ
 ガン農学校ハ創立最モ早キモノナリト雖トモ卒業生ヲ出セル已來未
 タ武十五年ノ星霜ヲ経シ迄ナリ而シテ其卒業生ノ員數ハ千八百八十
 五年ノ調査依レバ參百五十五人ナリマサチニューセツ州農学校ハ千
 八百七十一年尔初メテ卒業生ヲ出セリ農学校中其創立ノ最モ新シキ
 モノハ漸ク一兩年前初メテ卒業生ヲ出セリコロラド州ノ如キ是レナ
 リ今マ一二ノ農学校尔就キ其卒業生ナルモノハ現今如何ノ職業尔就
 キ居リシヤヲ登錄セン

メーン州農学校ハ千八百七十二年初メテ卒業生ヲ出シ其員數千八百
 八十五年尔至ルマテ貳百貳十一人ナリ而其内重立タル職業ヲ掌クレ
 バ左ノ如シ

一 土木師及機關師	七拾貳人
一 教師	參拾貳人
一 農業者	拾七人
一 商業家	拾六人
一 醫師	拾參人
一 法律家	拾壹人
一 分析家及藥種商	九人
一 博物館助手	貳人

一 農業新聞記者

貳人

一 美術家

壹人

一 寺院牧師

壹人

一 製造家

八人

此他ハ職業未定ノモノアリ或ハ死没セルモノ等アリテ分明ナラズ
 マサチニューセツ州農学校ハ開校已來卒業生ヲ出セルコト貳百參拾七
 人ニ及ブ今マ其職業ノ重モナルモノヲ左尔掲ケン

農業家

但普通農業、牧畜ヲ含ムス
 青樹、園芸、盆穀

六拾貳人

商業 肥料販賣人等ヲ入ル

四拾七人

化学師及製造家

貳拾五人

醫師 通常醫師及獸医ヲ入ル

貳拾人

教師及試驗場管理

貳拾人

土木及器械工師

拾六人

新聞記者

六人

代言人

四人

寺院牧師

參人

此他ノ卒業生ハ或ハ再ヒ大学尔入リテ書生タルモノアリ或ハ無職業
 ノモノアリ或ハ雜業ノモノアリテ一樣ナラズ

人或ハ農学校ノ卒業生ヲ評シテ其農科ヲ取ルモノ尽トク農業者タラ
 ズ其工科ヲ取ルモノ尽トク工師タラザルヲ責ムルモノアリト雖トモ

ソハ備ハランコトヲ求ムルモノルシテ到底之ヲ責ムルノ難キモノナリト云ハザルベカラズ蓋シ農工ノ学科タル博ク他ノ学科ルモ涉猟セザルヲ得ザルモノルシテ單純ノ数理ヲ研究スル如キモノル非ザルナリ故ル医師、代言師及ヒ神道學者ノ如ク卒業後尽トク其定職ニ就クベキモノト同一ナラズ況ンヤ教育ノ進捗ト才智ノ發達ル依リテ特爾秀出セル才芸ヲ發達シ又タ社会ノ風潮ルモ感動サル、ベキ所モアルモノナレバナリ

米國農学校ノ生徒ナルモノハ多クハ中人已下ノ子弟ナリ学科ヲ卒テ其父母ノ田園ヲ傳ランカ父母敢テ其子ノ助勢ヲ要セズシテ田園ヲ管理シ得ルアリ進ンテ獨立ノ田園ヲ開カンカ東北地方ルハ余地ナシ遠ク西方ル趣カンカ未タ資金ル乏シ其資金ヲ父母ル仰カンカ學費既ル父母ノ支辨セルモノナリ再ヒ其供給ヲ仰キ難シ況ンヤ卒業ニ及ンデハ既ル丁年トナリ獨立ノ業ヲ營ミ自立ノ計ヲナサ、ルベカラズ善シ之ヲ其父母ル仰クト雖トモ父母尽トク富裕ナラズ在校ノ學資ダモ充分之ヲ支給シ能ハズ故ル在学中ハ或ハ校園ル於テ現業ヲ取り或ハ器械營繕等ノ勞ヲ取り其資金ヲ得テ漸ク學資ル充ツ亦タ父母問フノ要ナシ故ル農学校ノ卒業生ナルモノハソノ校ヲ出ルヤ先ツ第一尔自立ノ生計ヲ立ルヲ謀リ第二尔營業資本ヲ貯蓄スルヲ勤メザルベカラズ故ル業ノ彼是ヲ問フ能ハズ衣食ノ謀ヲナサ、ルベカラズ況ンヤ地位ヲ得ルル難キ国土ル於テハ裕タトシテ已レノ欲スル業ル地位ノ入

ルベキモノアリテ來ルヲ待つ能ハザルモノナレバナリ是レ即チ農工学校ノ出身ノモノル種々ノ業務ル就クル至ル一大原因ナラン之ヲ要スルル經濟ヲ急ルシ志望ヲ緩ル処スルモノナリ

第參 (三) 農学校ノ組織及經費

農学校ハ其創立ヲ中央政府ノ法律ル基スルモノタリト雖トモ其校務ノ如キハ一切州政府ノ管理スル所タリ蓋シ建国已來米國ハ地方分權ヲ以テ國是トナスモノ故教育ノ如キモ亦タ中央政府ル於テ直接爾關係スル所ナシ況ンヤ又タ農学校資本ノ如キ中央政府ル於テ土地ヲ讓与セルル起因セルモノナリト雖トモ其創業費ノ如キハ各州ル於テ適宜其支出ノ方法ヲ定メシモノタルニ於テヤ故爾諸州ル於テ校務ヲ總轄シ名望アルモノヲ舉ケテ委員トナシ以テ之尔一切ノ事ヲ委託スルヲ以テ例トス州知事、學務局長、農會々々長、州ノ書記官、ノ如キ人ハ其官吏タル資格ヲ以テ員外委員タリ且ツ教頭モ教頭タル資格ヲ以テ委員ノ一人タリ蓋シ学校ノ振ト不振トハ教頭其人ヲ得ルト得ザルト尔大爾關係スルモノ、如シ教頭タル人ハ同校ノ事務長ルシテ教授ヲ兼任スルモノナリ各科ノ教授ハ其報文ヲ教頭ル出シ教頭ハ之ヲ州知事ル出スモノナリ或ハ州尔依リテハ委員長ヨリ直接爾州議院江出ス所モアルナリ

農学校年々ノ經費ハ半ハ永遠資金ノ利子ヲ以テ支出シ半ハ州尔於テ年々下附スル金額ヲ以テ之レル充ルモノナリメーン州農学校永遠ノ

資金ハ拾参万壱千参百弗一ヶ年ノ経費ハ千八百八十五年尓壱万六千弗ナリ其内八千弗ハ州政府ヨリ準備シ貳千弗ハ生徒ノ授業料ヨリ納マリ其他ハ永遠資金ノ利子ナリ経費ノ内壱万参千弗ハ教官ノ給料ナリマサチニューセツ州農学校資金参拾六万弗(但シ技芸学校ノ分ヲ入ル)尓於テハ千八百八十五年ノ経費参万四千弗ルシテ壱万弗ハ資金ノ利子ルシテ壱万弗ハ州政府ヨリ下附シ其他ハ校園収入及雜収入ナリ経費ノ内壱万参千弗ハ教官ノ給料ル費スモノナリ教授ノ給料ハ貳千貳百五十弗助教ハ八百弗ヨリ千二百弗尓至ルミシユツガン州農学校資金参十三万九千弗ハ壱ヶ年ノ経費凡ソ貳万九千弗ナリ其内貳万四千弗ハ資金ヨリ収入シ其他ハ該州ヨリ準備ス経費ノ内貳万壱千弗ハ教官ノ給料ナリ教官ノ給料ハ千八百弗ヨリ貳千弗尓至ルナリ

農学校附属ノ校園地ハ面積ノ広狭同シカラズト雖トモ貳百英町已上六七百英町ヲ含畜ス且ツ其管理ハ營業主義ヲ以テスルモノ多クシテ多少ノ純益ヲ農学校尓納ムマサチニューセツ州農学校千八百八十六年ノ年報ル依レバ該校ノ校園ナルモノハ貳百参拾三英町ルシテ其純益千八百四十拾六弗貳仙ナリ又タメーン州農学校ノ校園地ハ其面積参百七十六英町ルシテ千八百八十五年ノ純益六百八弗参拾四仙ナリ

第五 農事試験場

農学校ト密接ノ関係ヲ有スルモノハ農事試験場ナリ当時諸州尓於テ農事試験場ノ設ケアラザルハナシ而之ヲ管理スル者ハ多クハ農学校

ノ教師ナリ即チマサチニューセツ州ノ農事試験場々長ハ該州農学校化学教師ゲスマン氏ルシテ其試験場ノ如キモ現尓農学校ノ構内尓設置セリコンネツクチカツト州農事試験場ハシエフキルド理学校化学教師ジョンソン氏アリテ之ヲ管理セリ蓋シ農事試験場ノ目的ハ學術上ヨリ農業尓関スル種々ノ試験ヲナシ農業家ノ益ヲ謀ル尓在リ故ル敢テ広大ナル農園ヲ設立シ模範農業ヲ農業家ル示ス等ヲ以テ目的トナス尓在ラザルナリ米國農家ノ如キハ見聞広ク經濟ル鋭キヲ以テ敢テ模範ヲ他尓取ルル及ハズ各自ノ農業ハ各自ノ模範タリ苟モ利ノ多キ所ハ進ント之ヲ取ルヲ謀ラザルモノナシ蓋シ農業モ一ノ營業尓過キス物質ノ生産ヲ務メ以テ生活ノ途ヲ求ムルハ其要ナリ故ル生産多クシテ費スコト少ナク生活尓余裕ヲ生シ快樂ル人生ヲ送ルハ農家ノ達セント欲スル極点ニシテ千百ノ輕便ナル器械良好ナル肥料アルモ苟モ此目的ヲ達シ能ハザルトキハ更尓農家尓要ナキモノナリ農業ハ外觀ヲ粧フ為メノ農業尓非ズ利益ヲ取メンカ為メノ農業ナリ既尔此ノ營業主義ヲ以テ農業ニ従事スルトキハ固ヨリ得失相償ハザル如キ外觀倒レノ農園ノ如キハ無用ノ長物タルヲ免レズ夫レ然リ米國ノ農家ハ外觀ヲ粧ハス実利ヲ主トシテ農耕ル従事スルヲ以テ學理的試験ノ如キハ自ラ其衡尓当ル能ハス蓋シ試験ノ如キハ収利ヲ見ル能ハザルノミナラス又才芸ノ之尓適スルモノ稀ナリ故ル専門ノ學士ヲ撰ンテ試験尓従事セシムルノ要ヲ見ル尓至レリ是ヲ以テ各州尓於テ州費ヲ以

テ農事試験場ヲ起シ或ハ植物或ハ化学上ノ試験ヲ行ヒ公益ヲ謀ルル汲々タリコンネツクチカツト州ハ農事試験場ノ創立費トシテ貳万五千弗ヲ準備シ且ツ同年々八千弗ヲ以テ其經費充テリ該場ハニューヘブン府ヲ距ル凡ソ三英里ノ処在リテ其附屬地ハ七エークルアリ之ニ屬スル舍密場ニハ化学師二名助手二名アリテ之ヲ掌リ肥料、牛馬飼料、牛乳、種物、土質等ノ分析ヲナス該州ル於テ免許販売ノ人造肥料百參拾種ノ多キル及ヒ往々姦商等ガ不正ノ品類ヲ販売シ農家ヲ欺ク等ノ所業アルヲ以テ該州政府ル於テハ法律ヲ發シ人造肥料ハ毎年度試験場ノ分析ヲ經其保証ヲ得シモノル非ザレバ販売シ能ハザルモノトセシヲ以テ當時該州ノ農家ハ大ニ試驗場ノ利益アルヲ曉ルル至レリト云フ

紐育州ノ農事試験場ハコンネツクチカツト或ハマサチューセツ州ノ農業試験場ル比スルトキハ其規模稍広大ナリ博士スタリテバント氏アリテ之ヲ管理ス附屬地百二十五英町經費貳万弗化学師植物学者等数人アリテ肥料、牛乳飲用水等ヲ分析シ果樹或ハ小麦類ノ試験ヲ行フ小麦種ノ試験ヲナセシコト壺百種ノ多キル及ベリト云フ

該州ヲレンジ郡ルハ私立ノ農事試験場アリ紐育府ノ豪紳ワレンタイン氏ノ設立ル係ル有名ナル英國ノ博士サー、ロース氏ガローザムステツトル於ケル試験場ル倣ヒ玉蜀黍ノ播種ヲ以テ地味ノ厚薄ヲ試ミ或ハ氣象或ハ本草爾閔スル試験ヲ行ヒ農事ノ進歩ヲ謀レリ

各州トモ農事試験場ノ設立日尚淺シト雖トモ農家既ル其利益アルヲ認ムルニ至レリ將來學術ノ進歩スルル隨ヒ益々利益ヲ農家ル与ルハ昌介信シテ疑ハザル所ナリ今日米國ノ農家ハ旧慣ノ墨守スベカラズ學術ル依ラズンハコノ競争活潑ナル社会ル立チ營業スルノ難キヲ知レリ故ル好シテ學士ノ説ヲ聞キ喜ンテ學理的試験ノ成果ヲ知ラントスルノ氣風アリ文運進歩ノ然ラシムル所ル非ズシテ何ゾヤ

第六 米國農学校ル就テノ評論

論者アリ説ヲナシテ曰ク米國ノ農学校ハ其課程高尚ル過キ實業ル暗シト或ハ曰ク農学校ハ農業社会ヲ益スルコト尠シト昌介ヲ以テ之ヲ見レバ速了ノ管見タルヲ免レズ米國農学校ノ課程必シモ高尚ナラズ却テ他ノ大学ル於テ專修スルモノル比スルトキハ淺薄ノ嫌ヒナキ能ハズ其淺薄ノ嫌ヒナキ能ハザルモノハ実利的ノ學術ヲ專ラトシ教育的ノ學理ヲ講スルヲ務メザルル依ルモノ故農学校課程ノ組織上万止ヲ得ザルル出ルナリ又タ農学校ヲ以テ利益尠シトスルハ農学校ル待ツコトノ厚キル過ルモノナリ農学校ハ創業日尚淺ク其出身ノ人モ未タ多クハ壯年ノ學士タルル過キス先進者ガ斃而已ノ精神ヲ以テ鑒鑒タル老年ル至ル迄社会枢要ノ地位ヲ占ムルモノ多キ米國社会ル於テハ幼稚ナル農学校出身ノ人ガ未タ顯著ナル効能ヲ世間ル示ス能ハザルモ敢テ理ナキ能ハザルベシ加ルル農學ナルモノカ理學ノ一科タル地位ヲ占ムルル至リシモ甚タ輓近ノ事タルル於テヤ學者中尚未

タ農學ヲ以テ一ノ理學トナサズシテ經驗上ノ技術トナスモノナキルシモアラザルナリ

雖然米國聯邦中東北ノ諸州ハ殊更ル農學教育ノ緊要ナルヲ認ムル尙至レリ思ル昔時米國ガ英ノ殖民地タルヤ其南方温暖ノ諸州ハ貴族游惰ナル人種ノ移住セシモノ多シト雖トモ新英吉蘭六州及ヒ中央ノ諸州ハ中等敢為ノ士人カ或ハ自由ノ信仰或ハ政權ノ伸張ヲ謀リテ遠ク不毛ノ地ル移住セシモノナリ故ル新世界ル於テ天然ノ妨碍ヲ排除シ新社會ヲ起セシ士人ハ本國ル於テ压制ナルステアルド王党ル抗シ遂ル憲法政體ヲ起セシ士人ト同人種ナリ而此等ノ士人ガ米國ル移住スルヤ其本國ル於ケル町村自治ノ制度、土地割渡ノ方法、牛馬放牧ノ習慣、公有地會議ノ古風迄尽トク之ヲ移セシモノナレバ甲比丹スミス氏ガ漫ル新英吉蘭度ト稱セルモノ遂ル其當ヲ得ル尙至リシモノナリ然而此等ノ移民ハ各其土地ヲ耕作シ自ラ地主タリ耕作人タリ以テ相集リ遂ル郡ヲ起シ州ヲナシ今日ハ其學術、工業、製造商業等邦家ノ富強ヲナスモノ尙至リテ遂ル聯邦ル冠絶セル尙至レリ然ル社會ノ事物進歩スルル隨ヒ才能ヲ發達セズンハ生活ヲ得ル難キ尙至ルナリ新英吉蘭度諸州ノ如キモ開國已來殆ント三百年限リアルノ地上人口益増加ス爰ル於テカ極力的ノ農學ヲ執リ肥料、種物、器械、牛馬、建築、運輸、經濟等大ル研究スル所ナクンハ得失相償ハザル尙至ルヲ以テ保守ノ精神尙富ミ旧慣ヲ変スルコト尙客ナルハ農家ノ常

ナリト雖トモ營業上ノ刺衝尙依リ農業モ大ル改進スル所ナカルベカラザルヲ曉リ遂ル學理ノ効能ヲ瞻望スル尙至レリ然ル農家ヲシテ學理ノ頼ムベキヲ發悟セシメンハ農事試驗場大ル預リテ力アルモノ、如シ如何トナレバ試驗場ル於テ試驗スル肥料ノ分析種物ノ試耕等ハ現ル農業ヲ益スル所アルヲ以テナリ然ル農事試驗場ル居リ其事尙当ルノ人ハ農學校ノ教官ル非ザレバ其卒業生ナリ故ル農家ハ農事試驗場ノ利益ヲ見テ農學校ノ効能ヲ知ル尙至リシモノ多シ蓋シ此說タル昌介一己ノ意見ナラズ曩キル加奈他政府ノ命ヲ奉シ米國農學校ノ景況視察ノ為メ各州ヲ巡回セシウエルアム、サンドル氏及合衆國農務局長コールマン氏ノ囑託ヲ受ケ同シク各農學校ヲ巡回セシヘンリ、エ、アルホルト氏モ該說ヲ取ルモノ尙シテ蓋シ實驗上動カスベカラザルノ說ナリ

農學校ノ農家ル取リテ利益アルヲ世ル知ラセシモノハ独リ農事試驗場ノミナラズ農業協會農產共進會ノ如キモ大ル預リテ力アルモノナリ協會ハ各州各郡ル於テ其設ケアラザルナン毎秋共進會ヲ開テ農產ノ優劣ヲ競ヒ又タ毎冬總會ヲ開テ學士及ヒ實驗者ノ講筵ヲ催シ其結果ハ刊行シテ廣ク之ヲ農家ル分配ス共進會ル於テ學術進歩ノ結果ヲ目前ル視總會ル於テハ其原理ヲ親シク聴キ得ルヲ以テ農家大ル發悟スル所アルモ亦タ宜ナルコトナリ蓋シ農事試驗場、農業協會ノ總會、農產共進會ノ如キハ當世ノ現業家ヲ薰陶スル一大器械ルシテ農學校

ハ將來ノ農業家ヲ教育スル所ナリ

昌介ノ益友アルシテ本年夏マサチニューセツ州農学校教師アル撰擧サレタルアルポールト氏ノ説ルヨレハ今日農家アルシテ農学校ヲ無用視スルモノハ往時医学校ヲ無用視セシモノト同一ナリ往時ノ医師ハ実験ヲ主トシテ学理ヲ深く研究スルヲ務メズ然レトモ今日ノ医師ハ学理ヲ研究セシモノル非ザレハ人之ヲ藪医ト目シテ信用ヲ置クモノナン將來ノ農家モ亦タ学理ヲ研究セルモノル非サレバ人之ヲ称シテ藪農家トナスル至ラント蓋シ一理アル説ナリカノ亦タ米國農学校ヲ以テ全力ヲ奉テ農学アル尽サズトテ咎ムルモノハ六十二年ノ法律ヲ了解セザルモノナリ彼ノ法律ハ主トシテ農工ノ学科ヲ教授シ且ツ兵科ヲ設ケ又タ古語学ヲ包含シ以テ都人ヲシテ職業アル就クベキ充分ナル教科ヲ授クベシト云フアル在ルヲ以テ諸州アルテ其見解ヲ拡張シ種々趣向ヲ異ルセル農工学校ヲ起セシアルモノナリ雖然該法律ハ米國農学校ヲ濫觴ノ基ナルヲ以テ農学史上記念スベキ善良ノ法律ル非ズンテ何ンゾヤ

札幌農学校組織改正ノ意見

札幌農学校ハ旧開拓使ノ創設ル係リ専ラ該使奉務ノ学士ヲ養成シ拓土殖民ノ事業ヲ翼賛セシムルヲ以テ目的トナセシモノナリ故ル開拓使於テ一切ノ学費ヲ支辨シ其生徒ヲ視ルヤ恰モ父兄ノ子弟ヲ待ツ

カ如ク訓諭薰陶偏ル其大成ノ期ヲ待ツシモノナリ故ル其生徒タルモノモ奉務五ヶ年ノ盟誓ト北海道転籍ノ予約ヲ守リ卒業後ハ充分力ヲ北海道ル致シ縱令五ヶ年奉務ノ期ヲ過クルモ身北海道ヲ去ラズ北海道ヲ以テ墳墓ノ地ト定メ敢テ他ヲ顧ミザルモノナリキ故ル其生徒タル間モ或ハ遠ク石狩ノ原野アル入リ無人ノ境土ヲ跋渉シ山川地理ノ形勢ヲ視察スルアリ或ハ演説ル新聞ル拓土殖民ノ策ヲ講シ以テ世人ヲ勸誘スルヲ務メシモノアリ之ヲ要スル尔當時生徒ノ精神ナルモノハ自ラ進ンテ殖民事業ノ衝ル当リ偏ル我政府北地開拓ノ鴻業ヲ翼賛スルヲ企望セシモノルテ滿腔皆開拓ノ精神ナリト云フモ敢テ誣言ル非ザルヲ知ルナリ

然而札幌農学校ノ開業ハ明治九年尔在リ学生ノ卒業ハ滿四ヶ年ノ苦学ヲ経漸ク明治十三年尔至リテ十余名ノ卒業生ヲ出ス然ル尔翌十四年開拓使廢セラレ北海道三県及管理局ヲ置カレタリ明治十四年尔廢セラレベキ開拓使アルシテ巨額ノ入費ヲ吝マス以テ札幌農学校ヲ起シ漸ク十三年尔卒業スベキ生徒ヲ養成シ加ル尔開拓使ノ廃止ヲ知りツ、五ヶ年開拓使アル奉務ヲ盟誓セシムル如キハ前後甚タ矛盾セル措置ナルカ如シト雖トモ之ヲ要スル尔開拓使ハ十ヶ年後尚開拓使ノ繼續ヲ自期セシモノ故永遠ノ事業ヲ起セシモノナリ然ル尔論者アリ開拓使ノ事業中札幌農学校ノ設立ヲ以テ其最モ不適当ノ事業ナリトシ且ツ英米ノ殖民地農学校ノ設ケナキモ開拓盛ン尔行ハレ未耒取リ

テ荒蕪ノ地ヲ開拓スルノ人ハ農学校出身ノモノル非ズトナシ以テ札幌農学校ヲ無用視セシモノハ実ル彼我ノ情勢ヲ審カルセザル淺見ノ評論ト云ハザルヲ得ザルナリ請フ之ヲ論セン抑モ北海道開拓ノ事業タル本邦從來ノ農業法ル摠ルトキハ逆茂百年ヲ経ルモ其成效ヲ期スル能ハス況ンヤ僅々タル十ヶ年ノ歲月尔於テヲ宜シク擴張的^{拡張的}ノ農業法^{農業法}ル摠リ少數ノ人間尔テ手広キ地面ヲ耕作シ地面割尔テ収利少ナキモ全局尔テ収利多キヲ得ルヲ勤メザルベカラス泰西ノ諸國中擴張的^{擴張的}ノ農業ヲ採ルノ国ハ米國ヲ以テ其魁トナス千八百八十年ノ調査尔摠レバ百貳十萬坪已上ノ農場ノ數貳萬八千五百七十八ノ多キ尔及ベリ聯邦諸州ノ中テキサス州ノ牧畜家ノ如キハ殊尔広大ナル土地ヲ私有スルモノナリ該州ネー^{ネー}ス郡ケン^{ケン}グ氏ナル牧畜家ハ四億貳千參百五拾萬坪(參拾五萬英町)ノ牧地ヲ有シ五萬頭已上ノ牛五千頭已上ノ羊ヲ放牧セリト云フ我北海道広シト雖トモ其面積僅尔六千平方里尔過キス固ヨリ如此広大ナル農業ノ施行ヲ望ム能ハス独リ之ヲ望ム能ハザルノミナラズ現今米國農家平均ノ面積タル十五萬坪ノ土地ダモ北海道尔於テ將來豪農ト称セラルベキモノ尔シテ尚能ク耕作シ能ハザルベシ雖然本道農家ノ如ク一町歩未滿ノ土地尔テハ農家其生計ヲ立ル難キモノナリ故尔内地ノ農業尔一步ヲ進メ米國ノ農業尔倣ヒ以テ開物成務ノ策ヲ講セズンハアルベカラズ旧開拓使爰尔見ル所アリテ頻リ尔米國ノ農業ヲ我尔移スヲ勤メ或ハ牛馬尔或ハ器械尔或ハ種

物尔之ヲ米國尔仰ケリ然ル尔米國ノ農業タル学理ノ進歩尔伴フテ相進歩スルモノナリ故尔牛馬器械ノ如キ物質ノ輸入ヲ務ムルモ其基タル学理ヲ講究スルノ途ヲ開カズンハ恰モ龍体ヲ画シテ点眼セザルト一般尔シテ外形アリテ精神ナキモノナリ是ヲ以テ開拓使札幌農学校ヲ設ケ以テ學術共尔進歩セシムルノ基ヲ起セルモノナリ豈尔之ヲ無用ノ長物ト看過シテ可ナランヤ又タ英米ノ殖民地尔於テ農学校ノ設ケナキモ殖民事業ノ隆盛ヲ見ルト云フモノハ抑モ故アリ所謂殖民ナルモノハ英領加奈他及ヒ合衆國國領地尔於テモ招カズシテ相集ル歐洲各國ノ移民ナリ人口ノ稠密ナル事業ノ靜鑑^{静鑑}ナル歐洲尔在リテ生活センヨリハ寧ロ新開ノ國土尔来リ自由ノ民トナリ以テ生活ヲ求ムルヲ欲シテ来ルモノ尔シテ合衆國ノ如キハ移民ノ員數尅ヶ年五拾萬人ヲ過ク如斯多數ノ移民統々歐洲ヨリ来リ以テ荒蕪ノ地ヲ開拓スルヲ務ム何ノ要アリテ農学校ヲ殊更尔設立シ拓土殖民ノ機關トナスヲ待タンヤ加爾尔米國東部ノ諸州ハ教育隆盛尔シテ學術ノ進歩顯著ナリ其進歩ノ影嚮ハ推シテ西方ノ諸州尔及ブ故尔元ト農家ノ子弟ヲ教育スルヲ以テ設立セル農学校ナリト雖トモ其學術進歩ノ余沢ハ西方ノ諸州尔及ブナリ又タ憲法上ヨリ論スルモ米國政府ハ其直轄ノ学校ヲ起スベキ權利ナシ是レ即チ國領地尔農学校ナキ一原因ナリ既尔此等ノ理由アリテ英米ノ殖民地ハ我北海道ト事情ヲ異尔セリ之レヲ察セズシテ只一概尔英米ノ殖民地ハ農学校ノ設ケナシ我北海道モ農学校

ノ設ケナキモ可ナリト抹殺シ去ルハ昌介論者ノ為メル甚タ取ラザル所ナリ

夫レ然リ故ル開拓使ハ巨万ノ費ヲ吝マシテ農学校ヲ設立セリ其開校ノ日黒田旧長官学生ル告テ曰ク本邦ノ農タル古来専ラ慣法ヲ墨守スルノ弊アリテ理学ヲ講明スルノ教ナシ是レ農學ノ作振スル能ハザル所以ナリ故ル今ヤ教師ヲ海外ル聘シ此校ヲ設ケ農學ノ面目ヲ一新シ開拓ノ事業ヲ賛成セシメントス他日其興隆スル至ツテハ独リ之ヲ全道ル拡充スルノミナラザルベシ偏ル人材輩出ノ日ヲ企望ス云々トセリ学生亦タ此意ヲ体シ夜々勉勵遂ル明治十三年尔至リ初メテ卒業スル尔至レリト雖トモ廟謨廢使ノ議ヲ取り十四年ヲ以テ廢使置県ノ令ヲ敷カル而農学校ハ當時ノ農商務卿カ太政官尔上奏スル所アリ其設立ノ目的単ル教育のノ学理ヲ進歩スル尔非シテ実利のノ學術ヲ講究シ北海道ノ事業ヲ翼賛セシムル尔在ルヲ以テ之ヲ文部省尔附屬セシメシテ農商務省尔附屬セシムベシトノ議ヲ以テセシヲ以テ太政官其議ヲ容レ農学校ヲ以テ農商務省尔附屬セシメシモノ、如シ農商務省ハ之ヲ管理局ノ所轄トナセリ然而管理局タルヤ一官衙ノ一分課尔過キスシテ其事業ヲ問ヘバ開拓使カ創業セル農工ノ事業ヲ維持スル尔過キス焉シゾ拓土殖民ノ鴻業ヲ企図スルノ遑アラシヤ且ツ其実權ヲ有セザルモノナリ故尔管理局ナルモノハ農学校設立ノ目的ヲ達セシムル能ハズソノ之ヲ所轄スルモノハ他省ノ所轄トナルヲ惜

ミ僅カル維持セル尔過キス爰尔於テカ農学校生徒タルモノ茫然自失恰モ漂船ノ寄岸スベキ地方ヲ見ザルト同一ノ景況ナリ故尔最初全道尔尽スノ精神モ自ラ挫折シテ卒業後何レノ地ヲ問ハス地位ヲ得テ生計ヲ立ルヲ以テ必要ナルモノトナスニ至レリ將タ管理局尔出仕センカ人員尔限リアリ況ンヤ北海道ノ事業ヲ管理スルノ官衙ハ其本局ヲ東京尔置クヲ以テ北海道尔在ルモノハ其派出尔過キスシテ任官等ノ實權ナシ然ラハ県官尔奉仕センカ県官ハ僅尔牧民ノ職ルシテ北海道ノ事業尔手ヲ伸ス能ハス加ル尔県官ト管理局トハ互尔相容レザルノ風アリ是ヲ以テ農学校ノ卒業生ナルモノハ縱令精神ハ力ヲ北地尔致ス尔在リト雖トモソノ之レヲ致スベキ途ナシ独リ途ナキノミナラズ一身ノ糊口尔窮迫ス尔至ル是ヲ以テ遂尔北地ヲ去リ内地尔趣キ或ハ県官トナリ或ハ教員トナリ以テ生計ヲ謀ルハ万止ヲ得ザル尔出ルモノナリ農学校罪アル尔アラズ當時ノ実況之レヲ然ラシメシモノト云テ可ナラン

雖然今ヤ我政府道庁ヲ置キ以テ大尔拓土殖民ノ事業ヲ擴張サレ農学校ノ如キモ亦タ道庁ノ所轄尔婦セラル大尔農学校ヲ利用シ以テ拓土殖民ノ事業ヲ翼賛セシラル、ハ道庁殖民政略上ノ得策尔アラズシテ何ンゾヤ之ヲ利用スルノ途数多アリ第一尔人材ヲ養成シ以テ道庁尔採用サル、コト第二尔学理ヲ講究シ以テ農學ノ改良ヲ謀ルコト第三尔農蠶ノ教官或ハ生徒ヲ使用シ実業家ノ利益ヲ進歩セシムルコト第

四尔土工建築等ノ改良ヲ謀ルコト等尔シテソノ能ク之ヲ活用スルノ如何尔依リテ大尔拓土殖民ノ機關トナルハ昌介ノ信シテ疑ハザル所ナリ故尔今マ道庁尔於テ其組織ヲ改正シ以テ面目ヲ一新スルヲ以テ須要ナリトス請逐次其方法ヲ陳セシ

第一 農学校ノ目的ヲ確定スルノ議

道庁尔於テ農学校ノ目的ヲ明示シ独リ生徒ヲシテ其意ヲ奉戴セシムルノミナラス且ツ天下公衆尔其針路ノ向フ所ヲ知ラシムベシ蓋シ本校ノ目的ハ専ラ人材ヲ養成シ之ヲ道庁尔採用シ以テ拓土殖民ノ事業ヲ翼賛セシムル尔在ルヲ以テ苟モ本校尔来ルノ生徒ハ飽迄北地尔力ヲ致シ埋骨ノ地ヲ以テ北地ト定ムル精神ヲ養成スルヲ以テ緊要ナリトス生徒學費ノ如キハ從來ノ如ク官之ヲ貸与シ故尔卒業生ナルモノハ先ツ道庁ノ命ヲ待ツ道庁其採用ヲ要セラル、トキハ其命ヲ奉シベシ然ラズンハ道庁長官ノ認可ヲ得テ或ハ他ノ官衙尔奉務シ得可シ力ヲ北地尔致スノ途独リ仕官尔限ル尔アラズ或ハ民間尔在リテ事業ヲ執ルモ可ナリ又タ農学校ノ生徒ヲシテ尽トク貸与生タラシムベカラズ故尔北海道尔篤志ノ人尔シテ自立ノ業ヲ営ムヲ以テ目的トナシ自費入校ヲ志願スルノ人ハ農学校喜ンテ之ヲ許可シテ可ナリ之ヲ要スル尔札幌農学校ハ學術ノ進歩ヲ謀リ以テ人材ヲ養成シ拓土殖民ノ事業ヲ翼賛セシムルヲ以テ其目的トナス尔外ナラザルベシ今マ其目的ヲ明示シ生徒ヲシテ方向ヲ知ラシメ以テ開拓翼賛ノ精神ヲ暢發セシ

ムルハ実尔今日ノ急務ナリトス敢テ農学校ノ目的ヲ確定スルノ議ヲ進ム頓首再拝

第二 農学校ノ課程

論者アリ農学校ノ課程ヲ評シテ高尚ナリトセリ雖然農学校課程尔シテ其不完全ナルモノハ高尚ナル尔非シテ多端ナル尔依ルナリ抑モ農学校ノ課程ハ其模範ヲマサチユーセツ州農学校尔取レルヲ以テ学科多端ナリ故尔生徒タルモノモ僅カル課書尔依リ漸ク試験落第ヲ免ル、モノ多ク決シテ課業外尔勉勵スベキ余裕ナキモノナリ思尔マサチユーセツ州ハ米國聯邦中教育ノ普及ヲ以テ名アリ故尔農学校尔入ルノ生徒ハ充分普通ノ教育ヲ受クルノミナラズ農学校尔於テ研究スベキ学科中尔モ往々既尔研究セルモノアリ且ツ其生徒タルモノハ多クハ農家ノ子弟ナルヲ以テ農業ノ実地尔明ラカナリ故尔農学校尔於テ其課業尔就クハ其学力及ヒ經驗綽々トシテ余裕アリ何ンソ学科ノ多端ナルヲ思ヒンヤ況ンヤ其國語ヲ以テ學業尔就クヲ以テ其修學尔便ナル札幌農学校生徒ガ不満足ナル英語ヲ以テ學業尔就クト其難易同日ノ論尔非ズ既尔予備ノ学力尔乏シク亦タ經驗モ少ナシ之レ尔加ル尔外國語ノ不便尔製肘セラル生徒尔教授スル尔彼ノ多端ナル課程ヲ以テス生徒卒業ノ後學ブ所多キモ得ル尔所少ナキヲ以テ茫然自失具下ノ阿蒙タルヲ免レザルノ嘆アルモノアルモ亦タ宜ナラズヤ故尔今マ課程ノ組織ヲ改正スル尔当リソノ尤モ適切ナルモノハコノ繁冗ナ

ル学科ヲ殺キ以テ簡單專修ノモノトナスアルナリ

数多ノ学科ヲ尽トク研究シ深ク其蘊奥ヲ叩クハ泰西学士ノ力ト雖トモ固ヨリ及ブ所ル非ズ故尔当今泰西諸国尔於テ専門分科ノ風盛ンル行ル、ナリ今日独逸国尔於テ學術ノ進歩ヲ来セシモノハ専門分科ノ結果ト云ハザルヲ得ズ蓋シ博學多芸ハ造化ノ微妙ヲ奪フ學術進歩ノ社会尔ハ最早之ヲ望ム能ハス專學單芸コソハ実尔學術ノ進歩ヲ来スノ關鍵ト云ハザルヲ得ザルナリ雖然苟モ學業尔從事スルノ士ハ普通ノ智識ヲ有セザレバ学士トシテ社会尔立ツ能ハズ況ンヤ農學ノ義タル極メテ復雜ナルモノ尔シテ他ノ数多ノ学科ト關係ヲ有シ決シテ單歩独立スル能ハス故尔今マ農學校ノ課程ヲシテ簡單專修ノモノト變更セント欲スルモ他ノ学科ヲ減殺シ能ハザルモノアリ是ヲ以テ課程改正ノ実行ヲ奏セント欲セハ當時専門学科中尔在リテ農學尔關係ノ薄キモノヲ予備科尔テ授業シ一ハ以テ予科生徒學力ノ程度ヲ高シ二尔ハ専門学研究尔充分ノ余地ヲ与ルヲ以テ最良ノ方法ナリトス農學校ノ課程ヲ改正スルノ法独リ予科生徒學術ノ程度ヲ高スル止マラザルベシ宜シク専門分科ヲ設ケ學術專修ノ実効ヲ奏セシムベシ思尔北海道ノ事業タル興農ヲ以テ其主要トナスヲ以テ農學校ノ課程ノ如キモ先ツ農學ヲ以テ主トナシ他ノ学科ヲ以テ客トナスハ当然ナリト雖トモ他ノ学科中北地現今ノ事業尔ハ緊要ナルモノアリテ宜シク之ヲ一科ノ専門トナシ農學ト相併行セシムベシ即チ工芸ノ学科尔

シテ殊更尔土木工學器械工學ノ如キモノヲ然リトナス独逸国来因河地方尔於テハ葡萄^(ブドウ)育種ヲ以テ一ノ専門トナシテ教育スル一ノ農學校アリ英領加奈他ノヨンタリヤ農學校尔ハ乾酪ノ製造ヲ特別尔教授ス蓋シヨンタリヤ州タル乾酪製造ノ業盛ンナレバナリコロラド州農學校ハ灌水法ヲ以テ一ノ學課トナス蓋シ該州ハ沙漠ノ地多ク灌水セザレハ耕作シ能ハザレバナリ我北海道ハ新開ノ国土ナリ道路ノ建築、橋梁ノ架設、排水ノ通路、河港水利ノ土工、鐵路ノ築造、家屋ノ構造、原野ノ測量等殖民ノ事業進ム尔随ツテ益其業務ノ多端ヲ告クル尔至ルベシ故尔工學ノ一課程ヲ置キ以テ農學ノ課程ト相併行セシムルヲ要ス之ヲ反言セバ札幌農學校ハ全道ノ実況ヲ觀察シ農工ノ兩課程ヲ置キ以テ北地尔必要ナル人材ヲ養成スルモノナリ工芸學ノ外尚専門分科トナシテ可ナル学科アリ即チ農用化學獸医学ノ如キ是レナリ雖然此等ノ学科ハ先ツ農學課程中尔包含セシメ之ヲ從來ノ如ク教授シテ可ナリ蓋シ此等ノ学科ヲ以テ農學ノ一部トナス尔アラズ主科タル農學ノ客科トナシテ之ヲ教授スル尔過キザルナリ他日全道ノ実況此等ノ専門學士ヲ要ス尔至ラバ更尔農用化學或ハ獸医学ノ課程ヲ置キ専門ノ士ヲ養成セラル、モ敢テ遅キ尔非ザルベシ左尔農工ノ兩課程及ヒ予備科ノ學課ヲ提出セン

農学科 四ヶ年ノ卒業

農學 普通農學及ヒ特別農學ノ内牧畜、園芸、育樹、農産製造法、

農場管理法及日本農學等ヲ包含ス 附農事實習及試験

無機及有機化學

農芸化學

植物學

昆蟲學

動物學

獸醫學及實驗

水產學

森林學

地質學

幾何學及測量學三角術等

物理學大意

生理學

經濟原理

農用經濟及農政學

殖民策

歷史及ヒ地方制度ノ大意

農用記簿法

練兵

工學科 四ヶ年ノ卒業

幾何學

地質及金石學

無機化學

三角術及円錐法

重學

物理學

微分及積分

地誌測量及諸種ノ製図

量地術

自由画法、幾何画法及器械的製図

農用土木學 排水、灌水、等

土木工學 道路、橋梁等、

水利工學 河港、堤防等

建築學大意及衛生工學、

鐵路測量術

器械企図

物理及器械工場実地伝習

經濟原理及工業經濟史

練兵

予備科

読法及訳読

地理学

文法学

歴史

数学及代数学

幾何学

化学原理

博物学

会話及作文 英語

和漢学

農業大意

体操

已上ノ学科ハ農工ノ兩学科ルテ授業スベキモノヲ大概包含スルモノトス之ヲ要スルル農学科ル於テハ主トシテ農学ヲ教授シ之レル亞ク
ル農用化学、獸医学、昆虫学、水産学、森林学、農用經濟及農政学
等ヲ以テス工学科ル於テハ専ラ土木工学及農用工学ヲ教授シ之レル
亞クル水利、器械、衛生建築ノ諸工学及ヒ各種ノ製図学ヲ以テス予
備科ル於テハ普通学ノ外化学、博物学、農業大意及高等数学等ヲ教
授シ学力ノ程度ヲ高ムルヲ要トス將タ又タ諸学科ヲ学年度ル分配シ
或ハ時間ノ長短等ハ学科ル依リテ輕重長短ノ差異アルヲ以テ是等ハ

教官會議ル於テ決定スルヲ緊要トス之ヲ要スルル農工兩学ノ分科及
予備学科ノ程度ヲ高ムルコトハ農学校課程組織ノ改正上最モ須要ナ
ルコトトス敢テ課程改正ノ議ヲ進ム頓首再拜

第參 研究生撰挙ノ議

農学校ノ隆盛ヲ期シ全道ル必要ノ人材ヲ養成セント欲セバ善良ノ教
師ヲ置キ教授ヲ掌ラシムルヲ以テ最モ緊要ナリトス善良ノ教師トハ
他ナシ専門特秀ノ学士ヲ云フナリ専門分科ヲ以テ學術発達ノ關鍵ト
ナス今日ノ社会ルハ最早數芸多学ノ人ルハ専門科ヲ教授セシムル能
ハズ思ル農学校ノ課程タル數多ノ専門学ヲ包含ス故ル専門特秀ノ学
士ヲ以テ其教授トセザレバ学生ノ達芸ヲ望ム能ハス亦タ焉ンゾ農学
校ノ名譽ヲ高ムルヲ得ンヤ道庁既ル兩名ノ研究生ヲ米國ル留学セシ
メ植物及動物ノ学科ヲ專修セシム昌介其美挙ヲ稱賛スル所ナリ雖然
農学校尚數多ノ専門教授ヲ要ス即チ農用化学、獸医学、森林学、水
産学、諸学科ノ教授ノ如キ是レナリ是等ノ授業ヲ以テ始終雇外國人
ル委託スルハ独リ不經濟ナルノミナラズ又タ適任ノ人ヲ得ルコト難
シ故ル農学校卒業生中学力優等ナルモノヲ撰ミ研究生トナシ一兩年
間或ハ之ヲ本營或ハ東京大学或ハ農林学校ル入レ各自ノ学科ヲ專修
セシメ其卒業ヲ待ツテ尚之ヲ米國或ハ歐羅巴殊ル独逸國及英國江留
学セシメ其帰朝ヲ俟ツテ本營教授ル任シ以テ各自専門学科ノ事業ヲ
担当セシムベシ是レ実ル本營改良上必要ノモノトス謹テ研究生撰挙

ノ議ヲ進ム頓首再拜

第四 農学校ノ利用ヲ広ムルノ議

泰西教育上ノ行政ヲ觀察スルル其大学タル專門技芸ノ学校タルヲ問ハス独リ学士ヲ養成スルノミナラズ直接尔社会尙ツテ利益ヲ与ルヲ務ム之レヲ為スノ途数多アリ曰ク講筵ヲ開テ公衆ノ聴聞ヲ許ス曰ク刊行物ヲ出シテ智識ヲ広ムルヲ務ム曰ク書籍館使用ノ便ヲ開テ篤志ノ学士ヲシテ學術ノ探究ヲ完フセシム是等ハ即チ直接尔利益ヲ与ル方法ノ重モナルモノナリ今ヤ全道ノ拓土殖民ノ事業上智識ノ拡充ヲ要スルコト急ナルモノアリ然ル尔今ヤ幸ヒ尔札幌農学校ノアルアリ宜シク其利用ヲ広メ以テ拓土殖民ノ事業ヲ翼賛セシムベシ蓋シ教育ハ活物ナリ学校ハ死物尔アラズ殊更尔北海道ノ如キ新社会尔於テ其発達改良ヲ謀ルノ機関トナラズシテ可ナランヤ故尔今マ札幌農学校尔於テ直接尔全道ノ利益ヲ進歩セント欲セハ学士養成ノ外左ノ事業ヲ務ムベシ

第一 時々巡回教師ヲ郡村尔派出シ農工ノ事業上訓諭ヲ与ルコト

第二 臨時講筵ヲ開キ広ク公衆ノ聴聞ヲ許シ智識ノ発達ヲ謀ルコト

ト

第三 時々農工尔関シテ利益アル刊行物ヲ出シ広ク全道尔之ヲ報告スルコト

告スルコト

第四 簡易農科ヲ置キ邦語ヲ以テ農工ノ原理ヲ教授シ且ツ其实業

ヲ伝習セシムルコト

已上ノ事業ハ農学校尔於テ直接尔社会尙ツテ利益ヲ与フベキモノ、重モナルモノナリ此他農学校生徒ヲ夏期休業中諸ハ尔派出シ以テ山川地理ノ形勢ヲ視察セシメ傍博物見本採集等ノ事業尔從事セシムルモ亦タ農学校ノ利用ヲ広ムルノ一ナリ之ヲ要スルル農学校ヲ活用シ以テ充分其力ヲ伸バサシメ以テ道庁ノ事業ヲ翼賛セシムルハ道庁殖民政略上ノ得策ト云ハザルヲ得ズ謹テ農学校ノ利用ヲ広ムルノ一議ヲ進ム頓首再拜

第五 營業主義ヲ以テ農校園ヲ管理セシムルノ議

昌介米國諸州農学校附属ノ農校園ナルモノ、經濟ヲ聞クル之ヲ管理スルヤ營業主義ヲ以テス故尔其收入ナルモノハ幾分カ農学校ノ維持ヲ助クルモノナリ独リ農校園ノミナラズ植物園ノ如キモ収支相償ヒ多少ノ純益ヲ農学校尔出スモノナリ抑モ実用ノ理學ノ効用ハ専ラ之ヲ現世ノ經濟尔施ス尔在リ特別尔農學ノ如キ是レナリ世或ハ構造美麗ナル器械アルベシ良香美味ノ肥料モアルベシ雖然之ヲ實際尔施シ經濟上尔関シ利益ヲ生ゼズンハ學理上ノ奇物ナル尔過キズシテ實用ノ益物ト称スル能ハズ泰西ノ農業モ亦タ然リ北海道尔於テ孜々トシテ米國ノ農業ヲ我尔移スヲ勤ムルモノハ經濟上充分ノ利益アルヲ希望スレバナリ敢テ之ヲ道策之為尔ナス尔在ラス敢テ之ヲ博物見本視スル尔非ザルナリ偏尔其实利ヲ得ンガ為メナリ今ヤ札幌農学校ハ農

学ノ真理ヲ研究スルヲ務メテ怠ラズ而之ヲ實際ル施用スル所ハ農校園ナリ雖然農校園ル於テ収支相償ハズンハ何ヲ以テ泰西農業ノ我農業ル超越セルヲ世人尔示サンヤ故尔宜シク農校園ヲシテ營業主義ヲ以テ管理セシメ以テ泰西農業ノ利益アルヲ示スベシ農校園ヲシテ美麗ナル農具宏壮ナル家畜房尔於テ模範ノ外形ヲ粧フヲ止メ利益ノ多キ尔随ヒ此等ノ修飾ヲ加ヘシムベシ雖然今日ノ実況尔掬レバ独リ營業主義ヲノミ施行スル能ハザルモノアリ曰ク農学校生徒ノ試験用尔供スルモノ是レナリ是等ハ学理ノ為メルナスモノナルヲ以テ利益ヲ見ル能ハズ故尔農学上ノ為メ試験用地ヲ除クノ外ハ營業主義以テ施行スルモノトナシ以テ学理試験ノ為メ業ヲ執ルモノト利益ヲ得ル為メ業ヲ営ムモノト判然区画ヲ立ルヲ要スルナリ然而校園收入ノ如キハ税外收入トシテ之ヲ大藏省尔納ムルコトナリ之ヲ農学校永遠ノ資金トシテ畜積ノ一法ヲ設ケラル、コトアラバ益進シテ純粹ノ營業模範ノ農場トナシ以テ学理ノ貴ムベキ泰西農業ノ則トルベキトヲ世人尔示ス尔至ルベシ謹テ農校園營業主義管理ノ議ヲ進ム頓首再拜

第六 官制一定及学位ノ授与廃止ノ議

文部及農商務両省ノ官制尔倣ヒ札幌農学校ノ官制ヲ一定セラル、ハ画一ノ制度ヲ取ラル、我政府ノ国是尔対シ緊要ノ事ナリト恐察スル所ナリ雖然札幌農学校ハ文部大学或ハ農林学校ト異ナル所アルヲ以テ其官制ノ如キモ敢テ同一ナルヲ要セザルベシ謹而左尔草按ヲ提出

セシ

第一、事務官、校長、幹事 奏任

舎監、書記 判任

第二、教官、教授、助教 奏任

助教 判任

校長ハ命ヲ道庁長官尔奉シ事務ヲ總轄シ幹事ノ職之レ尔亞キ舎監ハ校舍ノ取締トナリ書記ハ庶務會計ノ事務ヲ執ルモノトス

教授及助教教授ハ専門学科ノ教育ヲ掌リ助教ハ専ラ予科ノ授業ヲ掌リ訓導ハ実業ノ伝習ヲ助クルモノトス

中央画一ノ制度尔倣ヒ札幌農学校尔於テモ学位ノ授与ヲ廃セラルハ至当ノ義ト恐察ス文部省尔於テハ専門分科ノ卒業生尔授クル尔学士ノ位ヲ以テセス又タ農林学校尔於テモ其卒業生尔授クル尔卒業証書ヲ以テセス故尔札幌農学校尔於テモ学位ヲ廃シ之レ尔代ル尔卒業証書ヲ以テスベシ謹テ官制一定及学位ノ授与廃止ノ議ヲ進ム頓首再拜

第七 教官會議ノ規律ヲ定ルノ議

教官會議ナルモノハ從來教頭之レヲ召集シ教員一同相會シ授業上ノ都合ヲ議スルモノナリト雖トモ校長敢テ之尔関スルコトナキヲ以テ或ハ教員ノ意裏校長尔貫徹セザルノ患ヒアリ加ル尔授業事務ト通常ノ校務ト相分別シ校長ハ重尔通常ノ校務ヲ取り授業務ノ如キハ一切教頭尔任シ随ツテ緊要ナル授業尔疎キノ恐レナキ能ハザルモノナリ

故尔今マ教官會議ノ組織ヲ一變シ其會員ハ教授助教ヲ以テ之レル
充テ校長自ラ其會議長トナルベシ教頭ノ如キハ別ル之ヲ設クルル及
ハザルナリ會員多数ノ決ハ之ヲ變スルヲ得ス校長異見ヲ異ルスルコ
トアレバ之レヲ長官閣下へ上申シテ其裁可ヲ仰クベキモノトス謹テ
教官會議ノ規律ヲ定ムルノ議ヲ進ム頓首再拜
已上ノ七議農学校ノ組織改正上緊要ノモノト愚考致候尔付不憚忌諱
謹テ之ヲ建議ス恐惶頓首

〔佐藤昌彦氏藏〕

六四六 札幌農学校官制（勅令第八四号）

朕札幌農学校ノ官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治十九年十二月二十八日 内閣總理大臣伯爵伊藤博文

勅令第八十四号

札幌農学校官制

第一条 札幌農学校ハ北海道庁長官ノ管理ニ属シ農工ニ関スル學術
技芸ヲ教授スル所トス

第二条 札幌農学校ノ各専門学科ヲ卒ヘ定規ノ試験ヲ経タル者ニ卒
業証書ヲ授与ス

第三条 札幌農学校ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

校長
幹事
教授
助教
訓導
舎監
書記

第四条 校長ハ一人奏任トス北海道庁長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ総轄シ
幹事以下ノ職員ヲ指揮監督ス

第五条 幹事ハ一人奏任現任校長ノ次等以下トス校長ノ命ヲ承ケ庶
務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

第六条 教授二人奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

第七条 助教ハ判任トス教授ノ職掌ヲ佐ク

第八条 訓導ハ判任トス農工ノ実業ヲ授クルコトヲ掌ル

第九条 舎監ハ判任トス校長若クハ幹事ノ命ヲ承ケ生徒及校舎ニ関
スル事務ヲ掌ル

第十条 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

〔法令全書〕